

面前ニテ開封シ若シ二人以上同價額ノ入札アルトキハ其入札人ハ更ニ追加ノ入札ヲ爲シ何レカ最モ高キ價ノ人ニ落スモノナリ入札ハ入札價額ヲ必要トスルヲ以テ或ハ高札ヨリ一割増トカ又ハ高札ニ何圓増加トカ記シタル入札ハ無効トス(七〇四)

入札人中保證ヲ立ツ可キ旨ヲ求メテレタルモノ保證ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定メラル可シ其時ハ最初ノ高ト次位ノ高トノ差金ハ其保證ヲ立テサル人拂ハサルヘカラス(七〇五)以上ノ外ハ競賣ト同一ナリト知ルヘシ

第四節 配當要求及ヒ配當手續ノ事

先キニ競賣手續ノ開始決定アル不動産ニ對シテ尙ホ競賣ノ申立ヲ爲ストキハ裁判所ハ更ニ開始決定ヲ爲サズ只申立ハ執行一件書類ニ添附シ以テ以前ノ競賣ニ配當要求セルモノト看做サル可シ尤モ先キノ分カ取消トナリシトキハ第一位ヲ占メ代ルモノトス(六四五)

配當要求ハ其原因ヲ開示シ仮住所ヲ定メ爲スヘシ(百六十三ページ)此要求ハ競落期日ノ終リニ至ルマテ爲スヲ得六四六執行裁判所ハ配當要求アリタルヲ利害關係人ニ通知スルヲ以テ其中債務者ニ於テ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ其通知ヨリ三日内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヲ裁判所ヘ申立ツ可シ其時ニ於テ若シ債務者カ認諾セサルトキハ裁判所ノ通知ニ依リ債權者ハ三日内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ債權ヲ確定セサルヘカラス然ラサレハ配當ヲ爲サ、ルモノトス(六四七)

各債權者ハ配當ヲ受クルカ爲メニ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ(六九二)裁判所ハ配當表ヲ作ルヲ以テ配當期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張シタル順位ニ對シ異議ヲ申立ル權利アリ其出頭シタル債權者モ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ

右ト同一ノ權利ヲ有ス(六九八)
以上ノ外ハ第七十二章ノ裁判所ニ於ケル配當手續及ヒ異議ノ申立ノ規定ヲ用ユルモノトス(六九七、六九八)

第五節 強制管理ノ事

強制管理ハ不動産ニ對スル強制執行ノ一方法ニシテ其不動産ヨリ生スル收益ヲ以テ辨濟ニ充ツル方法ナリ而シテ已ニ述ヘタルカ如ク強制競賣ト共ニ執行スルヲアリ之レ保全ノ手段ニシテ又強制管理ノミヲ執行スルヲアリ之レ獨立處分ニシテ彼ノ不動産ヲ移轉スルヲ得サル世襲財産ニ對シテ必要ナル處分方法ナリトス

強制管理ハ尙ホ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス要アリ

強制管理ノ強制競賣ト同一ナル手續ハ左ノ如シ(七〇六)

第一 強制管理ノ申立ハ強制競賣申立ト同一ナリ但申立ニ添付スル書類中若シ不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタ

ル場合ニ於テハ其不動産ヲ債務者カ占有スルヲテ疏明スル證書ヲ

以テ十分ニシテ敢テ登記判事ノ認證シタル登記簿又ハ不動産所有ノ證書ヲ要セサルニアリトス(六四二)

第二 強制管理申立ニ添附スル書類ハ強制競賣申立ニ添附スル書類ト同一ナリ但シ前號但書ヲ除クモノトス(六四三)

第三 強制管理差押ノ効力ハ強制競賣ノ差押ト同シク決定書ヲ債務者ニ送達スルニ因リテ生ス(六四四ノ三)

其他登記ニ記入スルヲモ亦同シ(六五一ヨリ六五四マテ)

強制管理ハ左ノ事項ヲ命スルニアリ(七〇七)

第一 債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルヲ及ヒ不動産ノ收益ニ付處分スルヲ禁スルヲ

第二 不動産ノ收益ノ給付ヲ爲スヘキ第三者アルキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キヲ

以上ヲ命ス但シ收益ニハ已ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來
シ若クハ到來ス可キ果實ヲ包含セリ
裁判所ヨリ不動産ヲ管理スル人ヲ任命シタルキハ其管理人ハ管理及ヒ
收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有シ從ヒテ債務者ニ代リ第三者
ノ給付例ヘハ小作米又ハ賃金ノ如キハ之ヲ取立ツル權ヲ有スルモノト
ス(七一)

第三者ニ於テ不動産ヲ管理スルコトニ不服ナルトキハ訴ヲ起シテ異議ヲ
主張スルコトヲ得(七一三五四九)

管理人ハ收益ヲ受クル權利アルヲ以テ其收益ヨリ不動産ニ係ル租稅其
他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ
其殘額ノ配當ニ付債權者間ニ協議調ハサルキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ
ルニアリ裁判所ハ前節ノ如ク配當表ヲ作り支拂ヲ爲スニアリトス(七一
四)又管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者債務者及ヒ裁判所

ニ計算書ヲ差出ス可シ各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨ
リ七日内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得右七日内ニ異議ナキ
トキハ承諾シタルモノトシ管理人ノ責ヲ解ク可シ異議ノ申立ハ管理人
ヲ審訊シテ裁判ス(七一五)

強制管理ハ一ケ年ヲ以テ限ルモノニアラス各債權者カ債權ノ辨濟ヲ得
ルマテハ何ケ年ニテモ引續キ不動産ヲ管理スルモノナリ此場合ニ於テ
特別費用ヲ要スルトキハ債權者ニ該金額ヲ豫納セシム若シ豫納セサル
トキハ強制管理ヲ取消サルルモノトス(七一六)
收益ニ付テノ配當要求ハ強制競賣ト同一ニ爲スモノトス

第七十四章 船舶ニ對スル強制執行ノ事

船舶トハ商法ノ規定ニ依リ商船トシテ登記スヘキモノ即チ積量十五噸
以上(日本形船ハ百五十石以上)ノ船舶及ヒ其他ノ海船ヲ總稱スルモノナ
リ而シテ是等ハ不動産ト同一ノ手續ヲ以テ強制執行ヲ爲スモノナリ其

他ノ船即チ端舟其他傍權ノミチ以テ運轉シ又ハ主トシテ傍權ヲ以テ運轉スル舟ハ之ヲ動産ト同一ノ手續ヲ以テ強制執行ヲ爲スニアリトス(七一八)

船舶ノ強制執行ハ強制競賣ヲ以テ爲シ其裁判所ハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管理トス(七一八)區裁判所ハ執行手續中差押ノ港ニ碇泊セシム然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ航行ヲ許サレノヲ申立ツルヲ得裁判所ハ之レヲ審査シ航行ヲ許ス可アル可シ(七一九)

強制競賣ノ申立ハ不動産ト同一ナリ但シ其添付スル證證ハ左ノ如シ(七二〇)

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルヲハ船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルヲ得明スルニ足ルヘキ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

右第二號ノ抄本ハ債權者ニ於テ執行裁判所ニ申立テ取寄スルヲ得可シ債權者ハ船舶ノ監守及ヒ保存ヲ爲サンヲ申立ツルヲ得若シ引續キ監守及ヒ保存ノ必要ナルトキハ其費用ヲ充ツルカ爲メノ金額ヲ豫納スヘシ然ラサレハ此處分ヲ取消サルルモノトス(七二二)

商法ニ在テハ船ノ所有者ト船長ト何レカ欲スル人ニ對シテ訴ヲ起ス可アルヘシ其時ニ於テ船長ニ對シテ爲シタル判決ニ基キ船舶ヲ差押ヘタルキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力ヲ生ス故ニ假令其船舶ノ所有者若シハ船長ニ變更アルモ決シテ妨ケス強制競賣手續ヲ續行スルモノトス左レハ新ニ船長トナリタルモノハ利害關係人トナルヘシ(七二二)船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消サル之レ管轄外ナレハナリ(七二三)

以上競賣期日公告競落等總テ不動産競賣ト同一ナリトス
 終リニ股分ノ事ヲ記載ス可シ
 夫レ船舶ノ股分トハ一個ノ船舶ノ所有權ヲ數多ノ持部ニ分チ共有スル
 モノニシテ所謂一船舶ヲ數人ニテ所有スルニアリ而シテ股分ハ各自不
 分ノモノニアラスシテ自己ノ股分ハ自己自ラ之ヲ賣却スルヲ得可シ
 故ニ之ヲ賣拂ヒ之ヲ買入タルモノハ舊所有者ノ地位ニ代ルモノナリト
 ス
 右ノ股分ニ對スル強制執行ハ不動産ト同一ノ手續ヲ以テ爲サスシテ財
 產權ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ヲ適用スルモノトス何ントナレハ
 若シ不動産ニ對スル強制執所ニ依ルトキハ他ノ股分所有者ヲ害シ營業
 ニ妨害ヲ加フルヲ以テ其船舶全体ヲ差押ヘスシテ只股分權利ニ對シテ
 強制執行ヲ爲スニアリトス而シテ其管轄ハ其船舶ノ定繫港ノ區裁判所
 ナリトス(七二六)

差押命令ヲ申請スルニハ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スル
 ヲ證スヘキ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用スヘキ證明書ヲ添付ス可シ而シ
 テ差押命令ハ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ
 効力ヲ生スルモノトス此管理人トハ商法第八百四十一條ノ明文アルカ
 如ク航海ニ關スル一切ノ業務ヲ處辨スル爲メニ股分所有者ヲ代表者ト
 シテ置ク人ヲ云フ(七二七)
 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ハ第七十二章ノ手續ニ從フモノトス(七二八、
 六二六以下)

第七十五章 假差押ノ事

假差押ハ強制執行ノ一部分ニシテ其目的ハ強制執行ヲ保全スル爲メニ
 爲ス手續ナリ故ニ未ダ判決アラサルモノニ對シ爲スヲ得ヘキノミナ
 ラス未ダ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スヲ得ヘシ到底之ヲ
 爲サ、レハ判決ノ執行ヲ爲スヲ能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ

困難ヲ生スル恐レアルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ルヘキ場合ニ爲スヲ得ヘキモノトス(七三七ノ二、七三八)
假差押ヲ爲シ得ヘキモノハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルヲ得ヘキ請求ニアリ而シテ動産又ハ不動産ニ對スルモノトス(七三七ノ一)
假差押ヲ申請スル裁判所ハ二種アリ未ダ本案ニ付キ訴訟ヲ起サ、ル以前ニアリテハ假ニ差押フヘキ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニシテ若シ又本案已ニ出訴シアル後ナレハ本案ノ管轄裁判所ニアリトス(七三九)
假差押ノ申請ハ口頭ヲ以テチモ爲スヲ得ヘシ書面ナルトキハ左ノ一例ノ如シ(七四〇)

假差押ノ申請書

原告

被告

一自分義附屬第一號ノ如ク被告ニ金何圓貸與シ之ニ對スル何月何日マテノ利息金何圓ヲ加ヘ合計金何十圓ノ債權者ニ有之候處附屬第二號ノ如ク被告ハ近來賭博ヲ爲シテ已ニ警察署ニ勾引セラレタル事實ナレハ此儘ニ經過セハ遂ニ財産ヲ消費シ後日辨濟ヲ受クルニ困難有之候條債權額ニ相當スル財産假差押相成度此段奉願上候也

右

○附屬第一號

(證文又ハ書面ノ認)

○附屬第二號

(日々新聞一葉ノ類)

右ノ如ク疏明シテ申請スルキハ別ニ保證金ヲ要セサルモ若シモ疏明セ
サルトキ又ハ疏明スルモ裁判所十分ナラストスルトキハ保證金ヲ出サ
ル、ヘカラス(七四一)

假差押命令アルキハ其命令ノ如ク執行スルハ強制執行ニ關スル規定ト
同一トス只少シク差異アルハ下ノ如シ(七四八)

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼ア
ル場合ニ限り執行文ヲ附記ス其他ハ執行文ヲ要セス又假差押命令ノ執
行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日內ニ爲サ
レハ之ヲ爲サス又十四日內ナレハ假令差押命令カ債務者ニ送達シア
ラサルトキト雖モ之ヲ爲スヲ得ス(七四九)

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒ爲ス就中債權
ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄トシ第三債務者
ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ假差押物ノ

競賣及ヒ假差押ノ有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サ、ルモノナレトモ其
物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルキ又ハ其物ヲ貯藏スルニ付不相
應ナル費用ヲ要スルモノナルキハ競賣ノ申立ヲ爲スヲ得可シ(七五〇)
不動産ナルキハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルモノトス若シ強制管
理ヲ爲スキハ保全スヘキ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託スルモ
ノトス(七五一、七五二)

船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムル
ニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リテ船舶ノ監守及ヒ保存
ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲スモノナリ(七五三)

以上何レノ場合ニ於テモ假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタル
トキハ執行シタル假差押ヲ取消サル若シ假差押ノ續行ヲ要スルキハ費
用ヲ豫納セハ之ヲ許ス豫納セサレハ取消ス可シ此取消ニ付テハ即時抗
告スルヲ得(七五四)

第七十六章 假差押ノ異議申立ノ事

假差押命令ニハ其執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押
ヲ取消スコトヲ得ル爲メニ供託ス可キ金額ヲ債務者ニ知ラシム可シ故
ニ其金額ヲ供託セハ執行シタル假差押ヲ取消サルルハ勿論ナリトス(七
四三、七五四)
之ニ反シ債務者ハ假差押ノ決定ニ不服アルモ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ
得可シ(七四四)

假差押決定ニ對スル異議申立書

一自分ニ對シ明治何年何月何日ノ假差押決定ニ附シ異議ヲ申立候即
チ原告何某ノ要求額并ニ其假差押ノ理由ニ付テハ不服ナリ尤モ利息
ノ内何圓ハ附属第一號ノ如ク返濟シアリテ其額ヲ減少セサルヘカラ

サルハ勿論理由トスル、、、、、ノ如キハ事實相違ニシテ決シテ斯
ノ如キコトナシ即チ附属第二號ヲ以テ證明仕候依テ右假差押ノ命令ヲ取
消アラントチ此段申立候也

右

、、、、印

○附属第一號

(利息金受取書)

○附属第二號

(事實相違ノ證書例ヘハ假差押申請ノ時博奕云云アルトキハ日
々新聞ハ不實ノコトヲ記載シタルカ故ニ新聞條例ニテ罰セラレ
タリトテ判決ノ謄本ヲ載スルカ如シ)

右ノ如ク異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ開キ双方ヲ呼出シ
取調ヘ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡ルサルモノ

○假差押ノ異議申立ノ事

トス(七四五)

異議ノ申立アルモ假差押ノ執行ヲ停止スルコトナシ(七四四ノ三)

第七十七章 假處分ノ事

假處分ハ係争物ニ對シテ爲スモノニシテ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐レアルキニ爲スナリ(七五五)又争アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムル爲メニモ亦之ヲ爲スコトアリ例ヘハ用水ノ争ヒニ付キ判決アルマテ甲村ハ何程乙村ハ何程ト假ニ水量ヲ定メテ引用セシムルノ類ナリ而シテ其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルキニ限ルモノトス(七六〇)

假處分ノ命令ヲ申請スルニハ本案ノ管轄裁判所ナリトス其急迫ノ場合ニ在テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請スルコトアリトス本案ノ裁判所トハ第一審裁判所ニシテ控訴トナリアルキハ控訴ノ裁判

所モ亦本案ノ裁判所ナリトス(七六二)

區裁判所ニ於テ假處分ヲ命スルキハ其定マル期間内ニ口頭辯論ノ爲メ相手方ヲ本案裁判所ニ呼出サ、ルヘカラス然ラサレハ此處分ハ取消サルヘシ(七五七、七六一、七六二)

假處分ノ申請ハ口頭ヲ以テ爲スコト得ヘキモ亦書面ヲ以テスルトキハ左ノ如シ(七五六、七四〇)

假處分申請書

申請人

一私義何某ニ係ル稻穂採取差拒排除ノ訴ニ付キ已ニ出訴仕置候通自分ハ稻穂ノ採取權アルコトハ附屬書第一號ニ依リ明瞭ナリ然ル處右稻穂ハ已ニ成熟シ一日モ忽カセニスルトキハ自然ニ腐敗スルノミナラズ鳥獸ノ爲メニ荒サレ損害甚シク且此等ノ收穫ノ時期ヲ失スルトキ

ハ實ニ容易ナラサル困難ヲ生スルコトハ附屬書第二號ノ如キ書面ニ依
リ明瞭ナルヲ以テ右稻穂ハ私ニ採取セラレノコト此段奉申請候也

右

、、、、

、、、、

、、、、印

○

附屬第一號

(賣買契約書又ハ代金ノ受取書)

附屬第二號

(隣地ノ所有者等ノ書面又ハ其村里ノ證明書)

假處分ヲ爲スニ付不動産ニ係ルトキ即チ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲
スコトヲ禁スルトキハ登記簿ニ其禁止ノ證人ヲ爲スヘシ(七五八)

急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經セサルモノニ依リ裁判長ハ假差押

假處分ノ申立ニ付裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ(七六三)

假處分ニ付テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ第七十六章
ノ如ク申立ヲナスニアリトス此異議申立アルキハ訴ヲ起シタルト同一
ナレハ口頭辯論ヲ開ク爲メニ呼出スヘシ又訴ノ未タ繫屬セサル裁判所
ナルトキハ期間ヲ定メテ出訴スヘキノ命令ヲ爲スモノトス尙ホ第七十
六章ニ就テ詳悉ス可シ

第七十八章 公示催告手續ノ事

公示催告ノ手續ヲ爲サントスルモノハ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシム
ルノ目的ニシテ之レヲ爲サシメサルニ於テハ常ニ拘束セララルノ思ヒ
アリテ安然タラサルカ故ニ請求又ハ權利アルモノハ裁判所ニ届出ツヘ
ク若シ届出テサルトキハ請求又ハ權利ヲ主張スル權ヲ失フト催告スル
モノトス而シテ此手續ニ依ルヘキ場合ハ法律上ノ規定スル所ニ從ヒ申
立ツルモノナレトモ尙ホ當然此手續ヲ爲スヘキモノアリ手形ノ如キ商

法ノ證書ノ如シ此事ハ下ニ之レヲ説ク可シ(七六四)

公示催告ハ書面(文例二百二十二丁)又ハ口頭ヲ以テ區裁判所ニ申立ツルモノトス(七六四ノ二、七六五)

公示催告ハ届出ヲ爲サシムルノ主旨ナレハ其公示催告期日マテニ請求權アリ又ハ何々ノ權利アリト届出ス可シ(文例二百二十四丁)尤トモ假令期日ノ經過スルモ申立人ヨリ除權判決ノ申立ヲ判決セサル以前ナレハ其届出ハ有効ナリト看做サル可シ(七六八)

公示催告期日内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ申立人ハ除權判決アラソト申立ツルヲ得ヘシ(文例二百二十五丁)此時裁判所ハ之レカ判決ヲ以テ或ハ却下シ又ハ制限ヲ付シ又ハ留保ノ決定ヲ爲スヲアル可シ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得(七六九)

申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フ届アルトキハ其事情ニ從ヒ届出タル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ

又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保セラル、モノトス(七七〇)申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ新期日ヲ定ムルノ申立アルマテ其儘ニ爲シ置ク其新期日申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月内ニ爲サ、レハ之ヲ許サス(七七一)

除權判決ニ對シテハ上訴スルヲ許サス只左ノ場合ニ在テハ申立人ヲ相手取り催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ出訴スルヲ得ヘシ(七七四)文例二百二十六丁(文例二百二十八丁)

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サ、ルキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六 民事訴訟法第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルキ

右ノ訴ヲ起スハ一ヶ月ノ不變期間内ニシテ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ第四、第六號ニアル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル以上何レノ場合ニ在テモ除權判決ノ言渡ノ日ヨリ五ヶ年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スヲ許サス(七七五)以下當然公示催告手續ヲ爲スヘキ場合ヲ説ク可シ

盗取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効(商法四〇三、七一一、八九九)ト爲シ得ヘキヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ハ以下ノ特別規定ニ依ル可シ又法律上公示催告手續ヲ許ス

他ノ證書ニ付其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ是亦此特別規則ヲ用ユルニアリトス例ヘハ世襲財産ニ付公示催告ヲ爲スノ類ナル可シ(七七七)以上ノ場合ニ於ケル申立人ハ無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人ニシテ此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキモノニ申立ノ權アルモノトス(七七八)

申立ハ書面(文例二百二十二丁)又ハ口頭ヲ以テ爲ス事ハ普通ノ場合ト同一ナレトモ尙ホ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲スヘシ(七八〇)

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盗難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

右ノ申立ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其

履行地ヲ表示セサルハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス又證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルハ例ヘハ質入書入ヲ爲シタル不動産ナルハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス又不動産ニ關スル時(例ヘハ世襲財産ノ不動産ナルハノ類)モ亦同一ノ裁判所專屬スルモノトス(七七九)

公示催告ノ期日内ニ届出テヲ爲ス及ヒ除權判決ノ申立ヲ爲ス及ヒ除權判決ヲ爲ス及ヒ除權判決ニ對シテ不服ノ申立ヲ以テ出訴スル等ノ事ハ普通ト同一ナリトス只除權判決ハ證書ヲ無効ナリト宣言シ不服申立ノ訴ヲ判決スルハ無効宣言ヲ取消ストノ判決ヲ爲スニアリトス(七八四)

除權判決アリタルハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルヲ得ヘシ(七八五)

第七十九章 仲裁人選定手續ノ事

仲裁手續トハ制裁人ヲシテ争ノ判断ヲ爲サシムル合意ニ依リ和解ヲ爲ス手續ニアリトス而シテ仲裁人ヲ選定スルハ仲裁契約ニ之ヲ定ム其定ナキトキハ當事者ハ各一人ノ仲裁人ヲ選定スルニアリトス(七八六、七八八)

當事者ノ双方カ仲裁人ヲ定ムル權利アルハ先ツ書面ヲ以テ仲裁人ヲ定メ且七日内ニ同一ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ催告ス可シ(文例二百三十五丁)若シ七日内ニ選定ヲ爲サ、ルトキハ其訴ヲ裁判所ニ起ス可シ(文例二百三十六丁)(七八九)一旦通知シタル仲裁人ハ之ヲ變更スルヲ許サス(七九〇)又仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルハ其仲裁人ヲ定メタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ更ニ選定ヲ爲シ若シ選定セサルハ裁判所ヘ其訴ヲ起ス可シ(文例二百三十五丁)(七九一)(文例二百三十七丁)

當事者ハ判事ヲ忌避スルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スル權アリ(第四章參照ス可シ)此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルルキハ亦之ヲ忌避スルヲ得又無能力者、聾者、啞者及ヒ公權剝奪又ハ停止中ノモノモ亦忌避スルヲ得ヘシ(七九三)

仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サ、リシトキハ其契約ノ効ヲ失フヘシ(七九三)

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルキ
以上ハ仲裁人ヲ選定スルヲ及ヒ仲裁契約ノ無効ナル場合ヲ説明シタリ

以下ハ仲裁人ノ判斷ヲ爲スヲテ説ク可シ

第八十章 仲裁人判斷ヲ爲ス事

仲裁人ハ左ノ事項ノモノヲ爲ス權利アリトス(七九四乃至七九六)

第一 仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

第二 仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アルルキハ之ニ從フヘク其合意アラサルキハ手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ定ムルヲ得ヘシ

第三 仲裁人ノ面前ニ任意ニ出頭シタル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルヲ得可シ但宣誓ヲ爲サシムルノ權ナシ

第四 必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス但其申立テ相當ト認メタルキニ限ル

其他仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルヲ主張スルルキ殊ニ

法律上有効ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷スヘキ争ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得ヘシ(七九七)仲裁判斷ヲ爲スル數名ノ仲裁人アルキハ過半数ヲ以テス但仲裁契約ニ別ニ定メアルキハ之レニ據ルモノトス(七九八)

仲裁判斷ニハ其書式ナシト雖モ普通判決ト同一ノ式ニ依ルモ差支ナシトス而シテ其正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ預ケ置ク可シ(七九九)仲裁判斷ハ當事者ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ効力アルヘシ(八〇〇)

第八十一章 仲裁判斷取消申立ノ事

仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ申立ツルコトヲ得ヘシ(八〇一)

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スヘキ旨ヲ當事者ニ言渡シ

タルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシキ

第六 民事訴訟法第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルキハ右ノ第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

仲裁判斷ノ執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ右ノ第六號ノミニ付テ申立ツルコトヲ得ヘシ但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハザリシコトヲ疏明シタルトキニ限ルモノトス(八〇三)

仲裁判斷取消ノ訴ハ右ノ場合即チ第六號ノ原因ノミニ付テ爲ス時ハ一ケ月ノ不變期間内トス此期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マリ執行判決ノ確定前ニハ始マラス其確定後五ケ年ノ滿了後ハ取消ノ訴ヲナスコトヲ許サス(八〇四)本案ヲ取消ストキハ執行判決ヲモ取消サルルモノトス此ノ期間ハ例外ナレトモ普通ニアリテハ仲裁判斷取消ノ訴ハ無期間ノモノトス故ニ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得可シ(又例二百三十八丁)

第八十二章 仲裁判斷執行ノ事

仲裁判斷ハ當事者間ニ在テハ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ効力ヲ有ス(八〇〇)トノ理由ヨリシテ強制執行ヲ爲ス効力モ亦有ルモノトス然レトモ仲裁判斷其モノカ直ニ強制執行ヲ爲ス効力アルニアラス必ラス執行判決ヲ受ケテ以テ強制執行ヲ求ムルニアリトス(八〇二)右ノ執行判決ヲ求ムルハ次章ノ裁判所ニ申請スルモノナリ裁判所ハ其判斷ノ當否

ヲ調査スルコトナクシテ判決ヲ付スヘシ
 執行判決ハ第八十一章ニ載スル取消ノ事項ニ當ル判斷ナルトキハ之レニ執行判決ヲ付與スルコトナシ之レ其手數ヲ爲スモ無効ナルヲ以テナリ(八〇二)
 執行判決ヲ付與セラレタルキハ之カ強制執行ヲ爲スハ普通判決ノ強制執行ト同一ナリトス故ニ第六十三章以下ニ從ヒ執達吏ニ委任シテ強制執行ヲ求ムヘシ

第八十三章 仲裁手續ニ付テノ裁判管轄ノ事

仲裁手續ニ付テ裁判所ニ裁判ヲ仰ク事柄ハ左ノ數項ニアリトス

- 第一 仲裁人ヲ選定スル申立ノ事(七八九、七九一)
- 第二 仲裁人ヲ忌避スル事(七九二)
- 第三 仲裁契約ノ消滅スル事(七九三)
- 第四 仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトノ訴ヲ爲ス事(七九七)

○仲裁判斷執行ノ事○仲裁手續ニ付テノ裁判管轄ノ事

第五 仲裁判斷ノ取消申立ノ事(八〇一)

第六 仲裁判斷ニ執行判決ヲ爲スル目的ナル訴ヲ爲ス事(八〇二)
以上ノ各場合ニ在テ訴ヲ爲スハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ヲ爲スモノトス

右ノ指定ナキハ各裁判上事物ノ管轄ニ從ヒ請求ヲ裁判上主張スル場合ノ管轄ヲ有スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄スル例ヘハ百圓以下ノモノナレハ區裁判所ニシテ百圓以上ナレハ地方裁判所ニアリトス
若シ右ノ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄スルモノトス(八〇五)

第八十四章 負債者失踪後訴訟ヲ爲ス手續ノ事

負債者失踪シタルモノナルトキハ之ニ係リ訴ヲ起スハ失踪後三十六ケ月ヲ經過シタル後彌々見當ラサルトキハ出訴ヲ許スヘキノ例規ナリシカ
新法即チ民事訴訟法發布實施後ハ本人所在地知レサルトキハ約定期限

後ニ至レハ本人ノ最後ニ有セシ内國ノ住所ヲ管轄セル裁判所ニ出訴ス
ヘシ又財産權上ニ係ルトキハ其財産ノ所在地ノ裁判所ニ出訴スルヲモ爲シ得ヘシ之レ同法第十三條ノ原則及ヒ第十七條ノ特別例ニ依リテ明瞭ナリトス然レトモ民事訴訟法施行條例ヲ以テ負債者失踪後ノ訴訟ハ明治八年一月布告第六號ヲ一時効力ヲ有セシムルモノト爲シタルハ新法ヲシテ一時實施ヲ爲サ、ルニアリ故ニ左ニ此布告ノ特別例ヲ説ク可シ
債權者ニ於テ債務者ノ失踪ヲ知ルニ二種アリ一ハ出訴前ニ知ルアリ一ハ出訴後ニ知ルアリ故ニ左ノ二區別ニ依リテ分明ナラン

出訴前ニ知ル場合、債權者定約期限未滿内ニ債務者ノ失踪ヲ知リシトキハ定約滿期ニ至リ直チニ其旨ヲ表示シテ普通裁判籍ヲ有スル裁判所ニ出訴ス可シ
出訴後ニ知リタル場合、訴訟ヲ提起シ裁判所ヨリ口頭辯論ノ期日ヲ定メテ訴狀ヲ債務者ニ送達シタルニ際シ本人失踪者ナルヲ判明ナルトキ

ハ裁判所ハ其旨ヲ債權者タル原告ニ通知スルニアリ
 以上何レノ場合ヲ問ハス裁判所ハ失踪者所管ノ戸長今ハ市區町村長へ
 申付失踪ノ年月日ヲ訊問シタル旨債權者ノ證書ニ裏書ヲ爲シ訴狀ヲ下
 戻スノ例規アリ
 今日新法ニ依リテ右ノ手續ヲ爲ス時ハ債權者タル原告ハ出訴スル際又
 ハ通知ヲ受ケタルキハ直ニ其被告所轄ノ市區町村長ニ就キ失踪ノ有無
 ナ聞キ失踪セシモノナルトキハ何年何月何日家出ノ旨ノ證明書ヲ受ケ
 之レテ裁判所ニ呈出シテ被告ノ失踪ヲ證明ス可シ尤トモ市町村長ニ於
 テ證明ヲ拒ムトキハ裁判所ニ申出テ右ノ證明ヲ取寄セラレシコトヲ申
 請ス可シ

裁判所ハ證書ニ裏書ヲ爲シ之ヲ原告ニ下付シ訴狀ヲ却下スルモノトス
 而シテ原告ハ裏書ニ基キ追テ本人見當ルカ又ハ三十六ヶ月ノ滿期後相
 續人ニ係リ訴狀ヲ提起ス可シ此時ハ明治六年十一月布告第三百六十二

號出訴期限ニハ關係ナシト知ル可シ

茲コ一ノ問題アリ負債者連帶證書ニシテ其中ノ一人失踪セシトキハ矢
 張其一人ヲ見當ルカ又ハ三十六ヶ月後相續人ノ定マルマテ他ノ人々ニ
 對シテモ出訴ス可カラサルヤ

此問題ハ舊法即チ訴答文例施行ノ間ニ在テハ大ニ議論アリシ處ニシテ
 連帶證書ハ必ラス一統ニ對シテ訴訟ヲ起サ、ルヘカラサルノ例規ナレ
 ハ一人ヲ欠クキハ出訴ヲ許ササルモノタリ然ルニ今日ニ在テハ其論ハ
 腐敗ニ屬シ決シテ正理上ノモノニアラス故ニ假令其中ノ一人失踪スル
 モ他ノ人々ニ係リテ全部ノ訴ヲ起スヲ得ヘシ原來連帶ノ利益ハ一人
 ニ於テ故障アルキハ他ノ人々之ニ代リテ辨濟ヲ爲スヘキ爲メノ主意ニ
 シテ其人々カ揃ハサレハ出訴スルヲ得サルモノトセハ連帶ノ効少シ
 モ見エス依テ今日ハ現在セル負債者ニ係リテ出訴スルヲ得ヘキハ當
 然ナリトス

○負債者失踪後訴訟ヲ爲ス手續ノ事

第八十五章 民事訴訟費用ノ事

民事訴訟費用ハ之レヲ一定ニセサレハ甲ハ多ク乙ハ寡クシテ全國區々トナリ訴訟人ノ利不利ニ關係チ及ホスモノナルヲ以テ法律一定シテ日本國中訴訟ヲ爲スモノナシテ遵守セシムルニアリトス即チ明治二十三年八月第六十四號法律ヲ以テ民事訴訟費用法ノ發布アル所以トス故ニ左ニ之レヲ説ク

訴訟費用ハ書類、手數料、旅費、日當、立替金等ノ區別アリテ各其費額ヲ異ニセリ先ツ書類ヨリ列記ス可シ

訴狀其他總テノ書類ハ書記料トシテ半枚ヲ以テ費額ヲ定ム即チ左ノ如シ

半枚十二行二十字詰

金二錢五厘

但半枚ニ滿タサルモノモ半枚ニ計算ス

圖面ニ付テハ左ノ如シ

一葉ニ付

金十錢

但測量ニ要シタルキハ測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ム

翻譯料ハ左ノ如シ

半枚十二行二十字詰

金五十錢

但半枚ニ滿タサルモノモ半枚ニ計算ス

以上ハ書類ニ付テノ規定ナリ以下ハ定價アルモノヲ説ク

訴訟用印紙

此印紙ノ事ハ次章ニ之レヲ別ニ説ク

公告料ハ左ノ如シ

官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テスル公告 各其定價ニ依ル

次ハ執達吏ノ手數料及ヒ立替金ノ額ニ付テノ事ニシテ左ノ如シ

書類送達手數料一通ニ付

金五錢

有体動産及ヒ未タ土地ヨリ離レサル果實并爲替證券其他裏書ヲ以テ

移轉スルコトヲ得ル證券ノ差押、假差押ニ付テハ左ノ如シ
執行スヘキ債權額

手数料

二十圓マテ

三十錢

五十圓マテ

五十錢

百圓マテ

七十五錢

二百五十圓マテ

一圓

五百圓マテ

一圓二十五錢

千圓マテ

一圓五十錢

千圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

若シ執務三時間以上ニ渉ルキハ一時間毎ニ右手數料ノ十分ノ三ヲ加フ但其一時間ニ滿タルモ一時間ト看做ス
右手數料ノ半額ヲ受クル場合ハ左ノ如シ

一、差押、假差押ヲ爲スヘキ物ナキハ

- 二、差押フヘキ物件アルモ其換價カ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキハ
 - 三、軍人軍屬ニ對スル強制執行ニシテ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ヨリ差押物ヲ執達吏ニ交付シタルハ
 - 四、先キニ差押ヲ爲シタル物ニ付キ差押ヲ爲スハ
 - 五、動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ第三者ヨリ引渡シタルトキ
 - 六、已ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルハ物ヲ換價スル爲メ其委任ヲ引受ケタル場合ニ於ケル執達吏ニ拂フトキ
- 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ストキ手数料ハ左ノ如シ

金五十錢

但執務時間二時間以上ニ涉ルキハ一時間毎ニ十五錢ヲ加フ其一時
間ニ滿タサルモ一時間ト看做ス

右ノ場合ニ於テ其場所ニ臨ムモ引渡スヘキ物ナキモ手數料ハ左ノ如
シ

金二十五錢

不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡スヘキ場合ニ於テ債
務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシムル手數料ハ左ノ如シ

金五十錢

執務三時間以内ハ

但執務三時間以上ニ涉ルキハ一時間毎ニ十五錢ヲ加フ其一時
間ニ滿タサルモ一時間ト看做ス

右ノ場合ニ於テ其場所ニ臨ムモ船舶アラサルキハ左ノ如シ

金二十五錢

強制競賣ヲ爲ス場合ニ於テ不動産取調ヲ執行裁判所ニ申請シ執達吏

ナシテ取調ヲ爲サシムルトキノ手數料ハ左ノ如シ

有体動産其他證書ヲ差押、假差押ヲ爲ス場合ノ執行スヘキ債權額ノ
割合ニ依リテ手數料ヲ定ムルモノト同一トス

動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手數料ハ左ノ如シ

競賣金額ニ依リ得タル金額カ債權
額ニ超ユルキハ但債權額

手數料

二十圓マテ

六十錢

五十圓マテ

一圓

百圓マテ

一圓五十錢

二百五十圓マテ

二圓

五百圓マテ

二圓五十錢

千圓マテ

四圓

以上千圓毎ニ一圓ヲ加フ

任意競賣ニ付テモ亦同一トス

○民事訴訟費用ノ事

執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル前ニ左ノ場合ノ生シタル
ルハ各定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但前段ノ競賣ニ付テハ特ニ
手数料三十錢トス

一、強制執行ノ停止又ハ制限セシ書類ニ依リ執行ヲ止メタルルル

二、委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルルル

三、支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルルル

右ト同シク其場所ニ臨ミタルルルハ各定メタル手数料ノ半額ヲ受ク但

競賣ニ付テハ特ニ手数料五十錢トス

執達吏ノ立替金トシテ辨濟ヲ受クヘキ種目ハ左ノ如シ

第一 書記料

第二 郵便料、電信料

第三 公告料

第四 證人、鑑定人ノ手當

第五 職工、役吏ノ手當

第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復ス
ル爲ノ費用

第七 人及物ノ送致費用

第八 物ノ保存并ニ監視ノ費用

第九 果實收穫ノ費用

第十 旅費

以上ノ内第一、第十ハ下ノ規定ノ如ク受ケ其他ハ實際支拂ヒタル額
ヲ受クルモノトス

書記料ハ左ノ場合ニ於テ半枚十二行二十字詰但十二行ニ滿タサルモ
半枚ト看做シ半枚ニ付キ 金二錢五厘

第一 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存ス
ル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ但法律ニ依リ

第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ届書ヲ作リタルトキ

第三 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタル并

左ノ場合ニ於テハ手数料 金十錢

第一 強制執行ニ關セサル告知及ヒ催告ヲ爲ストキ

第二 執達吏拒證書ヲ作リタルトキ

左ノ場合ニ於テハ手数料 金二十錢

拒者ノ營業場又ハ住居ノ問合ヲ爲シ拒證書ヲ作リタル并

日當ハ左ノ如シ

第一 證人ニ支給スヘキトキ 金二十錢以下

第二 鑑定人ニ支給スヘキトキ 金五十錢以下

以上日當ハ執達吏土地ノ情况ニ從ヒ支給シ且一里以上ノ地ヨリ呼出ストキハ他ニ旅費ヲ支給ス

旅費ハ左ノ如シ但シ證人鑑定人ノ旅費モ之ニ準ス

執達吏自己ノ役場ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里

ニ付キ其地方裁判所長ノ定メタル額ヲ受ク其一里ニ滿タサルトキ

モ亦一里トス

以上執達吏ノ手数料及立替金ノ事ヲ説了シタリ

當事者ノ日當 出頭一度ニ付キ 金五十錢

但滞在費ヲ給スル場合ハ此日當ヲ二十五錢トス

證人ノ日當 出頭一度ニ付キ 金五十錢

但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

鑑定人及ヒ通事ノ日當 出頭一度ニ付キ 金五十錢乃至五圓

但日當額ハ此範圍内ニ於テ裁判所ノ定ムル所ニ依ル其他鑑定ヲ爲ス

ニ付特別ノ費用ヲ要スルトキハ其實費ヲ拂フ

滞在費ハ左ノ區別ノ如シ但滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルニ限ル

第一 當事者 一日ニ付キ

金二十五錢

第二 證人鑑定人及通事 一日ニ付キ

金五十錢

旅費ハ左ノ如シ但通路兩線以上アルキハ最近通路ヲ以テ計算ス

第一 内國ナルキ 海陸滿一里毎ニ付キ 金十錢

第二 外國ナルキ 外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ定ムル所ニ

依ル

以上ハ人民ノ日當滞在費旅費等ノ規定ナレトモ實地臨檢ヲ要スルニ付
キ判事書記ノ出張スル場合ト雖モ右ト同一ノ費額ヲ拂フヲ以テ足ルモ
ノトス

第八十六章 民事訴訟用印紙ノ事

民事訴訟用印紙ハ以下ノ額ヲ以テ其書面ノ正本ニ貼用シ之レニ實印ヲ
以テ割印ヲ爲シ消印スルモノトス

裁判所書記カ口頭ヲ以テ申出タル時調書ヲ作ルトキハ印紙ハ其調書ニ

貼用スルモノトス

財産權上ノ請求ニ依ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別
ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

訴訟物ノ價額

印紙定額

金五圓マテ

二十錢

金十圓マテ

三十錢

金二十圓マテ

六十錢

金五十圓マテ

一圓五十錢

金七十五圓マテ

二圓二十錢

金百圓マテ

三圓

金二百五十圓マテ

六圓五十錢

金五百圓マテ

十圓

金七百五十圓マテ

十三圓

金千圓マテ

十五圓

金二千五百圓マテ

二十圓

金五千圓マテ

二十五圓

金五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

控訴狀ナルキハ右ノ半額ヲ上告狀ナルキハ右ノ全額ヲ加貼スヘシ故ニ五圓マテハ控訴狀ニ三十錢上告狀ニ四十錢ヲ貼用スルノ類ナリ
財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ左ノ如シ

第一審ナレハ

金三圓

第二審即チ控訴ナレハ

金四圓五十錢

終審即チ上告ナレハ

金六圓

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用スルモノトス

反訴ノ訴狀ニハ本訴ト反訴ト其目的物カ同一ノ訴訟物ナルキハ印紙ヲ貼用スルニ及ハス

和解及ヒ督促手續キカ變シテ訴訟ト爲リ其訴訟カ引續キ其區裁判所ニ繫屬シ口頭辯論トナルニ於テハ之レ一ノ訴訟ト同一トナルヲ以テ財産權上ト否トニ從ヒ相當ノ印紙ヲ貼用セサルヘカラス之レニ反シテ若シ和解及ヒ督促手續ニ付テ地方裁判所ノ管轄トナルキハ更ニ出訴スルヲ以テ規定ノ印紙貼用スルハ勿論ナリ只區裁判所ニ引續クヲ以テ注意シタルモノトス

再審ヲ求ムル訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス故ニ第二審ハ第一審ヨリ半額ヲ加貼シ終審ナレハ第一審ノ二倍ヲ加貼ス可シ

原狀回復ノ申立ニ付テモ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ右ト同シノ印紙ヲ貼用スルモノトス

右ノ場合ハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アテノコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ

其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

答辯書其他此章中ニ掲ケサル總テノ申請及ヒ申立ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

以上民事訴訟用印紙ヲ貼用スヘキモノニシテ貼用セサルハ其書類ハ民事訴訟ノ書類ノ効ナキモノトナル可シ

第八十七章 家資分散ノ事

從來民事上ノ義務ヲ辨濟スル資力ナキハ身代限ヲ爲シ以テ一時落著
ヲ爲シ其債務ハ子々孫々ニマテ及ホスノ規定ニシテ此身代限ノ處分ヲ
受ケタルハ公權ヲ失ヒ恰モ刑事上ノ刑ニ處セラレタルト同一ナリシ
而シテ此法ヤ民事上義務ヲ盡ササルニ對シテハ必要欠クヘカラサルノ
處分ニシテ之レヲ設ケサレハ終ニ所謂借り徳トナリ徳義上ト違約ノ罰
款ハ地ニ墮チ社交上ヲ維持スルヲ能ハス社會ヲ害シ秩序ヲ乱シ大公
益上ニ害ヲ及ホスヲ以テナリ故ニ身代限ノ法ヲ設ケ以テ徳義上ト契約
上トヲ維持セシムルニ至ルモノトス

然ルニ新法即チ明治二十四年一月一日以降ハ總テ民事訴訟上ノ体裁一
變シテ大ニ舊慣ノ非ヲ改メタリ今ヤ身代限ノ名ニ於ケル實ニ其不適當
ナルモノナレハ之レヲ家資分散トシテ更ニ規定ヲ設ケタリ夫レ身代限
ノ名ナルモ其實行スル處ハ債務者ノ總財産ヲ以テ債權額ニ割當テ分配
スルニアリ左レハ家資分散スルモノニシテ反テ其名義ノ家資分散ト云

フナ以テ適當トス之レ此法ノアル所以ナリ
 家資分散ハ如何ナル場合ニ於テ宣告セラル、ヤ左ノ如シ
 強制執行處分ニ依リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテ此者ハ
 家資分散者ナリト宣告セラル、モノトス
 身代限ト異ナル所此所ニ存ス身代限ハ未タ強制執行ヲ爲サスシテ直チ
 ニ行フモノナリ家資分散ハ一應強制執行ヲ爲シ義務ノ辨濟ヲ爲シ能ハ
 サルニ依リテ爲ス故ニ身代限ハ今ノ殆ント強制執行ニ當ルモノナリ而
 シテ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケタルモノ不服ナルキハ即時抗告ヲ爲
 スコト得可シ
 家資分散ハ管轄裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ宣告ヲ爲スコトアレトモ先
 ツ其債權者ノ申立アルヲ以テ決定スルコト多シ其申立ハ口頭ヲ以テ爲ス
 コト得ヘキモ書面ヲ以テスルキハ左ノ如シ
 家資分散宣告ノ申立書

、、、、

原告

、、、、

、、、、

被告

、、、、

右當事者間ノ何々事件明治何年何月何日執行力アル正本ニ因リ被告
 人ニ對シ強制執行處分ヲ施ス爲メ執達吏ニ委任候處附屬書第一號ノ
 如ク義務ヲ辨濟スル資力ナキヲ以テ何卒同人ニ對シ家資分散者タル
 ノ宣告被成下度此段奉願上候也

右

、、、、印

宛

○ 附屬書第一號

○ 家資分散ノ事

(執達吏ノ資力ナキ證明書ノ類ヲ云フ)

右ノ如ク申立ヲ以テ裁判所カ家資分散者タルノ宣告ヲナシタルハ其家資分散者ハ宣告ノ日ヨリ選舉權被選舉權ヲ失フモノトス而シテ此公權ハ如何ナル時ニ於テ回復スルコトヲ得ヘキヤナ説ク可シ
元來家資分散ハ債務ヲ辨濟セサルノ結果ヨリ生スル責罰ニシテ其債務カ原因トナルヲ以テ此原因サヘ消滅セハ罰モ自ラ解ケサルヘカラス而シテ其復權ヲ爲サントセハ左ノ手續ニ依ルモノトス
家資分散者ハ左ノ事ヲ證明セサルヘカラス

第一 元債、利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルコト

第二 所在ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ爲ス能ハサル債權者ニハ全額ヲ辨償スル準備及ヒ資力アルコト

右ノ如ク證明シ其償却シタルハ債權者ノ受取證其他證文ノ返却アリシトキハ其證文等必要ナル證據物ヲ呈出スルコト

以上ノ書類ヲ添へ管轄裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲ス可シ

裁判所ハ二ヶ月間之レカ異議者ノ有無ヲ取調フルカ爲メニ其旨ヲ廣告シ一面ハ之レヲ檢事ニ通知ス

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聞キタル後復權ノ申立ヲ許可スルヤ否ヲ決定シ其決定ニ對シ不服アルモノハ即時抗告ス可シ

若シ復權ノ申立ヲ棄却セラレタルハ一ケ年内ニハ再ヒ復權ヲ申立ツルコトヲ許サス之レ屢々資力ナキニ手數ヲ煩スノミナレハナリ

復權ハ假令債務者ノ死亡後ト雖モ本人ノ名譽上ノ爲メニ之レカ申立ヲ爲スヲ許ス然レトモ假令生存中ナリト雖モ重罪輕罪ノ爲メニ剝奪公權若シハ停止公權ヲ受ケタルモノナルハ其時間中ハ復權申立ヲ爲スヲ許サス蓋シ復權ハ財産ヲ治ムル權アラサルヘカラス然ルニ公權ヲ剝奪セラレ停止セララル身ナレハ自ラ財産ヲ治ムル權ナキモノナレハ到底復權ヲ許スコト能ハサルモノナレハナリ

第八十八章 民事訴訟法ノ親族ノ事

民事訴訟法中親族ノ文字アリ而シテ其親族トハ如何ナル範圍マテヲ包含スルヤ未ク實施セサル民法人事編第十九條ニ依ルトキハ血統ノ相聯結スルモノ、關係ヲ親屬ト云ヒ民法上親屬ノ關係ハ六親等マテ効力アリト規定シタリ而シテ此條ハ二十六年一月以降ニアラサレハ有効ニ適用スヘカラサルモノナレハ今ハ何ニ依リテ定ムルヤ知ルヘカラサルナリ民事訴訟法施行條例第九條ニ於テ其疑ヲ解キ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ルトセラレタリ依テ左ニ之レヲ説ク

- 第一 祖父母、父母、夫妻
- 第二 子孫及ヒ其配偶者
- 第三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 第四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者

- 第五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 第六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 第七 配偶者ノ祖父母、父母
- 第八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 第九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
- 第十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

右ノ親屬中祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シトス
又養子ハ其養家ニ於ケル親屬ハ實子ト同シ右ヲ適用スルモノトス

第八十九章 口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキ場合ノ事

民事訴訟法中口頭ヲ以テ爲スコトヲ許ス場合ト否ラサル場合トアリ口頭ヲ以テ爲ス場合ニハ裁判所ノ應接所又ハ訴所ニ至リ裁判所書記ニ面會

○民事訴訟法ノ親族ノ事○口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキ場合ノ事

シ訴、申立、申請ノ事實ヲ陳述シ裁判所書記ヲシテ調書ヲ作ラシムルモノトス之レ書面ノ費用ヲ省クノミナラス時間ヲ費ヤサス大ニ訴ノ道ヲ開カレタル便利ナルモノナリトス故ニ裁判所ニ行クモノハ之レヲ心得益ナキ金錢ヲ費用セサルコトニ注意ス可シ依テ左ニ口頭ヲ以テ爲シ得ラル、場合ヲ列記ス左レハ第一章以降説キ來リタル事ト比較シ以テ了解ス可シ

第一 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請(第二章)(文例一丁)(二八)

第二 裁判官書記ノ忌避ノ申請(第四章)(文例七丁)(三五)

第三 訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不分明ナル相續人

ニ對シテ訴ヲ起スヘキ法律上代理人アラサル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ノ申請(第六章)(文例十四丁)(四六、四七)

第四 主參加ニ付キ本訴訟ヲ中止スル申請(第八章第一節)(文例二十一

丁)(五一)

第五 裁判所書記、法律上代理人、辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過

失又ハ懈怠ニ因リ費用ノ生シタル片其辨濟ヲ負擔セシムル決定ニ

對シテ爲ス關係人ヨリノ陳辯(第十章)(文例四十三丁)(八三)

第六 訴訟費用額確定ノ申請(第十章)(文例三十九丁)(八四)

第七 訴訟上救助ノ申請(第十一章)(文例四十八丁)(九三)

第八 期日ノ變更又ハ期間ノ短縮若クハ伸長ニ付テノ申請(第十四章)

(文例六十丁)(一七一)

第九 訴訟手續中止ノ申請(第十六章)(文例七十三丁)(一八五)

第十 反訴ヲ爲ス事(第二十章)(二〇一)

第十一 證人ノ不參届及ヒ決定取消ノ申請(第二十四章)(文例百一丁)(二

九五)

第十二 證言ヲ拒ム申立(第二十四章)(文例百三丁)(三〇〇)

第十三 證人ヲ忌避スル申請(第二十五章)(文例百十一丁)(三〇四)

○口頭ヲ以テ爲スト、得ヘキ場合ノ事

右第十一乃至第十三ハ鑑定人ノ場合ニモ適用スルモノトス(第二十八
章及ヒ第二十九章)(三二二、三二七)

第十四 證據保全ノ爲メ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ヲ申請ス
ル事(第四十二章)(三六六)

第十五 區裁判所ニ爲ス普通ノ訴(第十七章)(文例七十九丁)(三七四)

第十六 和解ノ爲メ相手方ヲ呼出ス申立(第四十三章)(文例百二十一丁)
(三八一)

第十七 支拂命令ヲ發セラレシモノノ申請(第四十四章)(文例百二十三丁)
(三八四)

第十八 支拂命令ニ對スル異議ノ申立(第四十四章)(三八八)

第十九 訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ管テ繫屬シタルキ又ハ證人、
鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三
者ヨリ抗告ヲ爲スルノ抗告申立(第五十五章)(文例百五十七丁)(四五七)

ノ二

第二十 右ノ場合ニ於テ抗告人ト反對ノ利害關係人トシテ抗告裁判
所ニ於テ陳述スルキ(第五十六章)(四六一)

第二十一 執行力アル正本ヲ求ムル申立(第六十三章)(五一六)

第二十二 差押命令ノ申請(第七十一章)(五九六)

第二十三 假差押ノ申請(第七十五章)(七四〇)

第二十四 假處分ノ申請(第七十七章)(七五六)

第二十五 公示催告ノ申立(第七十八章)(文例二百十六丁)(七六五)

第二十六 家資分散ノ申立(第八十七章)(明治二十三年八月法律第六十

九號第二條)

以上口頭ヲ以テ爲スヲ得ヘキ場合ヲ列記シタリ已ニ説キタルカ如ク
口頭ヲ以テ爲スヲ許スハ之レ急迫ノ場合ニシテ且大ナル費用ヲ徒費
セシメサルニアレトモ口頭ヲ以テ申立ルノ却テ不便ナルコトアリ假令

○口頭ヲ以テ爲スヲ得ヘキ場合ノ事

へハ口頭ヲ以テセシニハ必ス本人自ラ出頭スルカ又ハ委任狀ヲ渡シテ代理人カ出頭セサルヘカラサルモノナリ然ルニ書面ナルトキハ必ラス本人持參スルノ要ナシ又持參セシムルモノ々々委任狀ヲ付スルヲ要セス或ハ序ヲ以テ呈出スルヲ得ヘク其モノニ依レハ郵送スルヲ得モ爲シ得ヘシ却テ利益ナル方書面ニモアルヘシ故ニ何レカ利不利ハ其場合ニ依リテ思考シ以テ書面ニテモ又ハ口頭ニテモ申立ツルヲ得ヘキモノトス

右列記ノ外ハ必ラス書面ヲ作りテ裁判所ニ呈出セサルヘカラス其口頭ヲ許サ、ルハ反テ害ヲ防キ後ノ争ヒヲ除カントスルニ外ナラサレハナリ讀者注意セヨ

第九十章 婚姻離婚及ヒ養子縁組離縁ニ關スル特別例ノ事

婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ付テノ訴訟手續ハ明治二十三年十月八日法律第百四號ヲ以テ公布相成リシカ民法人事編實施期限ヲ

ル二十六年一月一日ヨリ施行ナルヘキモノナレハ今暫ク之レカ手續ヲ説クヲ停メ其代リニ民事訴訟法施行條例ニアルカ如ク從來ノ慣例ヲ以テ當分取扱フトノ主旨ニ基キ左ニ之ヲ説述ス可シ

原來婚姻離婚及ヒ養子縁組離縁ニ付テノ慣例ハ其所ニ於テ各異ナルモノニシテ一概ニ定ムルヲ得ス然レトモ其訴訟ヲ起ス手續ニ付テハ已ニ正文律ト爲リテ昨年マテ永ク遵守シタル訴答文例中ニ於テ之ヲ見ル然レハ此手續ハ今日マテノ法律ニシテ全國之ニ從ヒアリタルモノナレハ今之ヲ説クニ當リテモ敢テ新ナル手續ニハアラサルヘシ而シテ其或ハ裁判管轄ノ如キ檢事ノ之ニ干涉スルカ如キ裁判言渡ヲ公告スルカ如キ檢事カ上訴ヲ提起スルカ如キハ之レ新法ニ於テノ規定ニシテ從來斯ノ如キ事ナケレハ當分之レヲ爲サ、ルニアリトス先ツ左ニ一二ヲ記載シテ參酌セシム

夫妻離別ノ訴ノ事

○婚姻離婚及ヒ養子縁組離縁ニ關スル特別例ノ事

此訴狀ニハ普通訴狀ニ必要ナル諸件ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ記スヘシ

第一 夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日

第二 戶籍簿ノ謄本

第三 原告夫ナレハ其父母若シ父母アラサレハ祖父母、祖父母アラサルハ尊族親、尊族親アラサレハ同等ノ親、同等ノ親アラサレハ卑族親、卑族親アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印

此奥書連印トハ左ノ如シ

前書申上候處相違無之候也

、、、
、、、
、、、印

第四 原告妻ナル時ニ於テハ其父母親族等ヨリ夫ニ係リ訴訟ヲ起ス可シ尤トモ其離婚ノ事實危急ナルハニシテ父母共ニナキ場合

ニ親族ニ告ルノ暇ナシトセハ自ラ訴フ事ヲ得ヘシ其父母在ルトキハ必ラス父母ヨリ訴ヲ起ストハ遅速ニ關係ナキモノトス
以上ハ婚姻ノ離婚ヲ訴フルノ手續ナリトス殊ニ妻ヨリ夫ニ對シテ訴ヲ起スハ人倫道義ノ許サ、ル所ナレハナリ

養子女ヲ離別スル訴ノ事

養子女縁組ヲ離縁スルニハ普通訴狀ニ認ムル條件ノ外更ニ左ノ條件ヲ記載スルモノトス

第一 養父母及ヒ養子女ノ生年月日

第二 養子女トナシタル年月日

第三 原告被告双方ノ戶籍簿謄本

第四 養家ヨリ離別スルハ其養父母、親族カ原告人トナルモノトス若シ親族在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲スヘシ

第五 實家ヨリ取戻ヲ爲サントセハ其本生父母又ハ親族カ原告人トナル可シ

以上ノ條件ヲ必要トスルモノトス而シテ養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請フノ訴ヲ爲スヲ許サス之ヲ許ストセハ父母ニ對シテ子ニアラストノ訴ヲ爲スト同一ニシテ天倫ニ於テ許スヲ得サルモノタリ即チ養父母ト養子女トノ間ハ實父母ト實子ト同一ノ關係アルモノニシテ親子ナルヲ以テナリ

尙ホ左ニ婚姻及ヒ縁組ノ事ニ關シタル布告達ヲ載セ參考ノ爲メニス

第一 離縁ノ訴ハ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直チニ裁判所へ出頭苦シカラス(六年五月布告第百六十二號)

(因ニ曰フ此項離縁トハ婚姻ヲ離別スル即チ離婚ヲ指シタル文字ナリ今ノ稱ト異ナリ注意スヘシ何ントナレハ養子女ハ自ラ養父母ヲ相手取ルヲ許サ、レハナリ)

第二 婚姻養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁等戶籍ニ登記セサル内

ハ其効ナキモノトス(八年十二月太政官達第百九號)

以上特別例中從來明文アルモノ、ミチ載セタリ其他別居セシムルカ如キ財産ノ分別等ハ其土地ノ慣例ニ從フヘキモノトス

第九十一章 供託手續ノ事

民事訴訟法中供託ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ

第一 訴訟上ノ保證ヲ爲スヘキ場合ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ供託スルヲ(第十一章(八七)

第二 債務者ニ於テ執行ヲ免カレントスルトキノ供託ヲ爲スヲ(五〇五)

第三 物件賣得金ヲ以テ各債權者間ニ配當スルヲノ調ハサルモ執達吏ニ於テ其賣得金ヲ供託スルヲ(五九三)

第四 金錢ノ債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者カ其債

務額ヲ供託スルコト(六二一ノ一)

第五 右ノ場合ニ於テ配當ニ與カル或ル債權者ノ求メニ依リテ供託スルコト(六二一ノ二)

第六 配當期日ニ異議ノ申立ナキモ停止條件附ノ債權ノ配當額ヲ供託スルコト(六三〇ノ二)

第七 配當期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ヲ供託スルコト(六三九ノ四)

第八 不動産船舶ヲ引渡明渡スノ義務アルキニ於テ債務者カ其内ニアル動産ヲ受取ルコトヲ怠ルキハ執達吏ハ之ヲ競賣シ其代金ヲ供託スルコト(七三一ノ五)

第九 假差押ノ命令ニ依リ之ヲ停止シ又ハ取消ヲ求ムルカ爲メ債務者ノ命令金額ヲ供託スルコト(七四三)

第十 假差押ノ場合ニ金錢アルキハ其金錢又物品ニシテ其儘ニ爲シ

置クキハ著シキ價ノ減シ又ハ貯藏ニ付不相應ナル費用ヲ生スルキハ其物品ヲ競賣シテ賣得金ヲ供託スルコト(七五〇ノ四)

第十一 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲スル保全スヘキ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託スルコト(七五二)

民法ニ在テハ左ノ如シ

第一 債權者カ辨濟ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受クル能ハサルキニ於テ債務者ハ其金錢又ハ有價證券ヲ供託スルコト(民法財産編四七四以下)

第二 不動産ヲ滌除スル場合ニ於テ債權者ノ名ニ於テスル債務額ヲ供託スルコト(民法債權擔保編二六八)

其他ニ供託スヘキ場合アレトモ之ヲ略ス

商法ニ在テハ左ノ如シ

振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ手形ヨリ生スル一切ノ

債務金額ヲ供託スルコ(商法七四〇)

右ノ諸場合ニ於テ供託セントスルキハ左ノ供託書ヲ作ル可シ

第一號 普通供託スル書面(一通ヲ製ス可シ)

供託書 (用紙寸法美濃板)

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

〔官吏ノ公務上取扱ニ係ル者ハ官廳
名及官氏名ヲ記載スルモノトス代
人ヲ用ユルトキハ其住所氏名ヲ書
加フルモノトス〕

一金何圓也

一何分利附何公債證書何圓券

一何銀行又ハ何會社株券何圓券

何第何番 何枚
何第何番ヨリ
第何番マテ
第何番ヨリ
第何番マテ
第何番ヨリ
第何番マテ

(有價證券ノ種類其他多數ニテ本書ニ認メ難キキハ單ニ有價證券何枚

ト記載シ別ニ明細書ヲ添付スヘシ)

事由 (裁判中ニ係ルモノハ其件名及裁判所名ヲモ記載スヘシ)

前書ノ物件何地ニ於テ寄託致度此段請求候也

右

年 月 日

何

某 印

預金局長氏名殿

(分割ヲ要スルトキ差出ス供託書ハ本文ノ「前書ノ物件」ノ下ニ左ノ如ク
書キ入ルヘシ)

明治何年何月何第何號受領證ノ内分割ノ上

トス

第二號 供託物ノ分割ヲ要スルキハ更ニ分割シタル第一號ニアル供託
書各二通ヲ調製シ此書式ノ請求書ニ認メ供託取扱所ヘ差出スモノトス

分割請求書 (用紙寸法美濃板半折)
今般何々ノ事由ニ據リ何第何號受領證ノ物件別紙供託書ノ通り分割相
成度此段請求候也

住所

年月日

何

某印

預金局長宛

右ノ供託ヲ爲ス場所ハ左ノ如シ

第一 東京府内ハ 大藏省預金局

第二 其他ノ各地ハ 本支金庫

供託ヲ爲ス方法ハ左ノ如シ

規則ニ於テハ供託書ニ供託スヘキ金錢若クハ證券ヲ添ヘ其取扱所ヘ
持參出頭スヘキモノトス然レトモ郵便ヲ以テ寄託スルモ差支ナシト
ス而シテ此場合ニ於テハ金錢ハ寄託スヘキ供託取扱所所在地ノ銀行

又ハ郵便局ニ拂渡スヘキ送金手形若クハ爲替手形等ヲ以テ爲スヘシ
供託物ニ利子ヲ付スルコトハ左ノ如シ
供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂
渡請求ノ前日マテ通常預金ノ利子ヲ付ス
右ノ利子ハ元金仕拂ノ際共ニ受クルモノニシテ其時ハ左ノ利子請求書
ヲ供託取扱所ヘ差出ス可シ
利子請求書 (用紙寸法美濃半折)

何年何月何日何第何號受領證何某ヨリ寄託シタル供託金何圓ニ對スル
利子仕拂相成度此段請求候也

(代供託又ハ附屬供託物アルトキハ何年何月附受領證ニ於ケル代供託
又ハ附屬供託金何圓ニ對スル利子ト書加フヘシ)

住所

年月日

何

某印

預金局長宛

有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル手續ハ有權者ヨリ
左ノ手續ヲ爲ス可シ
先ツ有權者ヨリ左ノ請求書二通ニ委任狀ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所へ差出
スモノトス

償還金又ハ利息又ハ配當金受取方請求書 (用紙寸法美濃板)

有權者 、 、 、 、

(第一號書式ニ同シ)

一金何圓也

何分利附何公債證書又ハ何銀行又ハ何會社株券何圓何年何月又ハ
何期渡(利息)又ハ配當金又ハ何年何月償還金何年何月何日何第何號
受領證何某供託ノ分

受取場所何地

前書金額受取相成度此段請求候也

年 月 日

宛

何

某 印

右ノ如ク請求ヲ爲サスシテ請求スル權利ヲ失フモ政府ニ於テハ之ヲ償
ハサルモノトス依テ注意ス可シ
供託物ノ拂渡ハ二種アリ一ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ一ハ裁判
所ノ通知ニ依リ拂渡スモノナリ又一ハ供託者自ラ返戻ヲ求ムル場合ア
リ其終リノ返戻ヲ求ムル場合ニ在テハ受領スヘキ理由アルコトノ證明ヲ
要ス

拂渡ハ全部又ハ幾分アリ左ノ書式ニ從ヒ請求書ヲ作り初メノ供託書ト
償還(利息)又ハ配當金アルキハ其代供託物トシテ預リタル受領書トヲ添

～供託取扱所ニ差出スモノトス
拂戻請求書 (用紙寸法美濃板半折)

今般何々ノ事由ニ據リ何第何號受領證ノ物件拂戻相成度此段請求候也
(幾分ノ拂戻ヲ請求スルキハ次ノ書式ノ受取證ヲ添附シ何第何號受領
證ノ下ニ内別紙受取證ノ文字ヲ加フヘシ)

年月日

住所

何

某印

幾分拂戻ノ受取證 (用紙寸法美濃板)

供託物受取證

何年何月何日何第何號受領證ノ内

一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

又ハ
何第何番
第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

一 何銀行(又ハ何會社)株券何圓券 又ハ第何番ヨリ 何枚
第何番マテ
(有價證券ノ種類多數ニシテ本紙ニ認メ難キキハ單ニ有價證券何枚ト
記載シ別ニ明細書ヲ添附スヘシ)
前書物件正ニ受取候也

年月日

住所

宛

何 某印

供託取扱所ニ於テ供託物ノ拂戻請求ヲ受ケタルキハ休日ヲ除キ三日以
内ニ拂戻スヘキモノナリ

供託金利子證券ノ送付ヲ受ケタルキハ其證券ニ記載アル大藏省預金局
又ハ本支庫へ差出シ之レト引替ニ現金ヲ受取ル可シ

第九十二章 行政事件ヲ司法裁判ニ訴フル事

行政裁判所ノ設置アル以來ハ總テノ行政事件ヲ裁判セララル、モノナル

カ如キモ之レ制限アリテ總テテ起訴スルヲ許サス左ニ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘキモノヲ載セ以テ司法裁判ニ出訴スル事件ト區別セシム

第一 法律勅令ニ於テ行政裁判所へ出訴スヘシトノ明文アルトキ
(例ヘハ市町村制又ハ土地收用法ノ如シ)

第二 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

第三 租稅滯納處分ニ關スル事件

第四 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

第五 水利及土木ニ關スル事件

第六 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

以上第二乃至第六ハ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスルモノニ限ルモノトス

右ノ外ノ行政事件ニ付キ市區町村長ヲ相手取り出訴セントスルモノハ

從前郡區戶長ニ對スルト同シシ地方裁判所ニ出訴スルモノトス

地方裁判所ハ之レヲ受理スル以前ニ在テ司法大臣ニ受理不受理ヲ經伺シタル上之レヲ受理シ又ハ之ヲ却下スルモノトス

一旦受理セラレタル上ハ普通事件ト同一ノ手續ニ依リ審判ス其裁判言渡ニ付テハ上訴ヲ爲スヲ許サス之レ裁判所ハ内閣ノ裁可ヲ經テ言渡スモノナレハナリ其受理セサル却下ニ對シテモ亦上訴權ナキモノト知ル可シ

第九十三章 執達吏職務細則ノ事

第一節 總則

執達吏ハ法律ニ明文アルモノヲ除ク外尙ホ以下ニアル手續ヲ以テ其職務ヲ取扱フモノトス

執達吏ノ職務ノ管轄ハ各區裁判所ノ管轄内受持區ニ限ルモノナレハ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ爲シタルモハ管轄ニ拘ハラス直チニ其委任ニ應

スルノ義務アリトス(五三三)尤トモ其委任ノ人民ヨリスルト官廳ヨリス
 ルトナ問ハス執達吏規則第八條ノ自己ノ身ニ關係スルキハ職務上ヨリ
 除斥セラルルコト勿論ナリ又法律上除斥セサルモ正當ノ理由アリテ職
 務ヲ行フテ差支ユルキハ命令ノ裁判所又ハ委任者ニ通知スヘシ此通知
 ナ爲スヲナモ爲シ能ハサルキハ其旨區裁判所ノ判事ニ申立ツ可シ
 職務ニ關スル書類ヲ受取リタルキハ別ニ書面委任ナクトモ口頭ヲ以テ
 委任シタルニ於テハ職務ヲ行フニ十分ナル効力アリ裁判所又ハ檢事局
 ヨリ命スル事件ニ付テハ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ委任スル權アリト
 ス其互ヒノ授受方法ハ各裁判所ニ於テ定ムル手續ニ依ラサルヲ得ス
 執達吏ハ委任ヲ受ケタル事件ハ遲滯ナク完結スヘシ(五三二)施行上期間
 ナ定メタルモノハ其期間内ニ必ラス之ヲ完結ス可シ若シ正當ノ差支ア
 ル場合ニ於テハ相當ノ時間内ニ代理人任命ノ求メテ區裁判所ニ申立ツ
 可シ其他ノ場合ハ委任事件ノ緩急ニ從ヒ順序ヲ定メ完結ス可シ若シ此

際任意競賣事件ノ委任ヲ受ケタルトキハ他ノ事件ノ後ニ廻ス可シ
 執達吏ハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ判事又ハ檢事ノ許可アルニアラ
 サレハ其職務ヲ施行スルヲ得ス此許可ノ命令ハ職務施行ノ際之ヲ示
 シ又此職務施行ニ付作ル可キ證書中ニ其旨ヲ記入シ又書類ヲ送達スル
 件ハ命令ノ謄本ヲ添附スルモノトス(五三九)其夜間即チ日没ヨリ日出マ
 テノ時間内ニ於テ強制執行行爲ヲ爲スキモ亦執行裁判所ノ許可ヲ受ク
 ルニアラサレハ爲スヲ得ス(五三九)又裁判所ノ休暇即チ毎年七月十一
 日ヨリ九月十日マテノ間ニ在テハ執達吏ノ委任事件ヲ完結スルニ付テ
 ノ義務ニ影響ヲ及ホササルモノトス
 執達吏ニ於テ職務上保管スヘキ金銀、有價證券、書類及ヒ物品ヲ貯藏スル
 爲メ土藏又ハ堅牢ナル建物ヲ有シ又ハ之ヲ借置キ大切ニ保存スルノ義
 務アリ(五六六、五七一)而シテ自己ノ金銀ト區別シ之ヲ密封シテ貯藏スヘ
 シ又其者ノ求メアルトキハ官廳人民ニ係ハラス受取證ヲ差出サ、ルヘ

カラス其債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルキ又ハ其一部分ニテモ辨濟シタルキハ別ニ求メナキモ受取證ヲ渡サ、ルヘカラス(五三五)

執達吏ニ於テ證書ヲ作ル場合ニハ左ノ諸件ヲ注意シ以テ怠ルヘカラス但別段法律上ニ規定アルモノハ是亦共ニ守ルヘキモノトス

- 一、證書ニハ其作リタル年月日時場所及ヒ住所官氏名ヲ記シ印ヲ押ス
- 二、證書ニハ明確ニ之ヲ作り且成ルヘク簡易ナル文字ヲ用ヒ鉛筆ノ類ヲ用ヒサル
- 三、證書ハ正本謄本ヲ問ハス空行ナク之ヲ作ル可シ若シ抹消スルキハ文字ヲ讀ミ得ヘキ爲メ線ヲ引キ之ニ印ヲ押スヘシ印刷シタル書式用紙中ニ記入ヲ爲スヘキ際其記入スヘキ事ナキトキハ其空問ニ線ヲ引ク可シ
- 四、時間ニ依リ手数料ヲ定ムル時ハ必ラス其調書ニ執務時間ヲ明記

スヘシ其執務時間トハ着手ノ日時及ヒ終了ノ日時又停止シタルキハ其時間ヲモ記載ス可シ

- 五、謄本ニハ謄本タル旨ヲ記ス可シ又職務上ノ認證ハ認證ナル語ヲ付シ之ニ署名捺印ス可シ又認證ハ謄本ト正本ト符合スルニアラサレハ爲ス可カラス

- 六、正本及ヒ謄本ニ付テハ第十款ノ如ク費用ノ計算ヲ爲スヘシ官印ハ鄭重ニ之ヲ貯藏シ職務上ノ外一切使用スルコトヲ許サス其職務ヲ罷メタルキハ之ヲ其區裁判所ニ差出ス可シ書狀等ニシテ差出スヘキコトヲ要スルキハ其封印ヲ爲スヘシ其印ハ自費ヲ以テ作ルモノトス

執達吏ハ職務黙秘ノ義務アルモノトス故ニ之ヲ洩スニ於テ刑事上ノ制裁ヲ受ケルニアリ又證人トシテ公ノ義務上ニ在テ陳述スルコトヲモ許サス必ラス之レカ許可ヲ受クヘキモノトス(二九〇、二九八)

執達吏強制執行ノ委任ヲ完結シタルキハ債權者ノ故障ノ有無ニ係ハラ
ズ其成贖ヲ區裁判所ニ届出ツ可シ但シ差押フヘキ物ヲ換價スルモ執行費
用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキキモ亦完結シタルモノト知ルヘシ(五六四)

第二節 送達

第一款 通則

書類送達ハ其送達スヘキ書類ヲ受取ルヘキモノニ交付シ其送達施行濟
ノ旨ヲ送達證書ニ記スヘキモノトス(一三七、一五一)
書類送達スルノ際守ルヘキ規定ハ其書類ノ旨趣及ヒ種類即チ正本、謄本
ヲ問ハス同一ナリトス

第二款 民事事件ノ書類

執達吏ハ民事事件ニ關スル送達ニ付テハ民事訴訟法第三百三十六條乃至
第三百五十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス即チ送達ハ原告若クハ被告ヨリ又
ハ其訴訟代理人ヨリ裁判所書記ヲ經テ委任セラレ、ヲ通例トス(一三六

ノ一)就中裁判所書記ヲ經テ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其手数料其他此事
件ニ關シテハ原告又ハ被告ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノト看做サル
ルモノトス

執達吏ハ送達ヲ爲スニ付テハ左ノ注意ヲ爲スヘシ若シ欠缺アルキハ適
宜ニ之ヲ補充シ得ヘキトキハ自ラ之ヲ補フヘシ

- 一、書類ニ署名捺印アルヤ否ヤ
- 二、認證ヲ要スル謄本ニ認證アリヤ否ヤ
- 三、謄本ハ必要ナル員數ヲ具備スルヤ否ヤ(一〇八)
- 四、呼出狀ニハ期日及ヒ場所ヲ掲ケアルヤ否ヤ

執達吏送達スヘキ書類ヲ受取リタルキハ二十四時内ニ送達ヲ爲ス可
其住所地外ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキハ遅クハ三日ヲ過クルヘカラス
但日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ハ右日數ニ算入セス
送達ヲ爲スニ付テハ左ノ如シ

第一 送達ハ何レノ地ヲ問ハズ其之ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スヲ得但此受取人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルハ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ受クルノ義務ナキモノナリ此場合ニ於テ拒ムルハ必ラス其住居又ハ事務所ニ就キテ送達ス可シ(一四四)住居又ハ事務所ノ外ノ送達ハ書類ヲ確實ニ交付シ且其場所及ヒ時機ヲ選ムヘシ

第二 送達ハ之ヲ受ク可キ本人ニ爲スヲ通例トス其訴訟能力ヲ有セサル原告又ハ被告ニ對スル送達ハ法律上代理人ニ之ヲ爲ス(一三八ノ一)公私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘラル、會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當人ニ之ヲ爲ス若シ數人アルハ其中一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ルヘシ(一三八ノ二及ヒ三)豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス(一三九)囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス(一四〇)モノトス

第三 送達ハ之ヲ受クル人ニ爲ス能ハサルハ於テ住居外ニ事務所ヲ有スル人ナレハ其事務所即チ店舗又ハ營業場ニ到リ本人ニ出會ハサルハ其所ニ在ル營業使用人(番頭手代職工其他雇傭人ヲ包含ス)ニ之ヲ爲ス(一四六)若シ能ハサルハ本人ノ住居ニ至ルヘシ尙ホ出會ハサルハ同居ノ親戚又ハ雇人ニ之ヲ爲シ若シ此等ノモノナキハ市町村長ニ書類ヲ預ケ告知書ヲ作り住居ノ戸ニ貼付シ且近隣ノモノ二人ニ通知シ置クヘシ

第四 辯護士ニ對スル送達ヲ爲ス場合ハ執達吏ハ通例其事務所ニ到ルヘシ此事務所ニ於テ本人ニ出會ハサルトキハ其補助人又ハ筆生ニ之ヲ爲スヘシ(一四六)若シ此手續ヲ爲ス能ハサルハ第三ノ末段ノ如ク爲スヘシ

第五 公又ハ私ノ法人及ヒ會社又ハ社團ノ法律上代理人又ハ首長若シハ事務擔當者ニ對シ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例其事務所

ノ執務時間内ニ其事務所ニ到ル可シ若シ此等ノ者ニ出會ハサルモ又ハ此等ノ者カ之ヲ受取ルヲ拒ムトキハ他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ(一三八、一四七)若シ此手續ヲ爲ス能ハサルモ第三ノ末段ノ如ク爲スヘシ

以上送達ハ正當ノ手續ヲ履ムトキハ之ヲ受取ルヲ拒ムテ得サルモノナレトモ若シ之ヲ拒ムモハ交付スヘキ書類ヲ其場所ニ差置クヘシ(一四九)執達吏ハ送達ニ付證書ヲ作り左ノ事項ヲ記載ス可シ

- 一 送達ノ場所、年、月、日、時
 - 二 送達ノ方法
 - 三 受取人ノ受取證(之ヲ拒ムモ又ハ受取證ヲ作ル能ハサルモ其旨)
 - 四 送達吏ノ署名捺印
- 以上記載ノ事項數葉ニ涉ルモハ之ニ契印スヘク其送達證書ハ遅クモ其送達ノ翌日裁判所書記ニ交付ス可シ

執行處分ニ關スル調書ノ送達、決定命令ノ送達、配當要求ノ送達、届書ノ送達、計算書ノ送達其他執行行為ニ關スル通知、催告ノ送達ハ特別ノ規定ニ從フヘシ其條目ハ下ノ如シ
民事訴訟法五四〇、五四一、五六六、五九一、五九八、六〇〇、六〇二、六一二、六二〇、六二四、六四四、六四七、六五六、六八九、七〇九、七一〇、七一五、七二七條ナリトス

第三節 強制執行

第一款 通則

執達吏ハ民事事件ノ強制執行ヲ施行スル任アルモノナレハ別段裁判所ニ於テ爲スヘシトノ規定アルモノヲ除ク外ハ委任ヲ受ケタル事件ヲ獨立シテ處分ヲ爲スヘキモノトス尤トモ處分ヲ爲スニ付テハ裁判所ノ監督ヲ受クルモ直接ノ指揮ヲ受クルヲナシ但民事事件トハ裁判ヲ經タルモノノミナラス債權者ノ請求ニ付キ訴訟手續ヲ經スシテ執行シ得ラル

ルモノ即チ公證人ノ作りタル證文又ハ和解證書仲裁人ノ判斷ノ如キモ包含スルモノナリ

執達吏ノ職務ニ屬スル強制執行ハ左ノ如シ

- 第一 金銭ノ債權ニ付テノ有体動産ニ對スル強制執行(五六四ヨリ五九三マテ)有体動産中ニハ記名證券、無記名證券、株券其他此ニ類スル有價證券ヲ包含シ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルヲ得ル證券ニ依レル債權ハ差押ノ場合ニ於テハ有体動産トシテ取扱フモノナリ(六〇三)
- 第二 金銭ノ債權ニ付テノ不動産及ヒ船舶ニ對スル強制執行ニシテ裁判所ヨリ命セラレタル時(六四三、六五九、六六三ヨリ六六九、七〇三ヨリ七〇五、七一七以下)
- 第三 動産不動産及ヒ船舶ノ引渡若クハ明渡ヲ爲サシムヘキ強制執行(七三〇、七三一)
- 第四 假差押及ヒ假處分ノ執行(七三七ヨリ七六三マテ)

若シ裁判所ノ爲スヘキ強制執行ノ委任者アルトハ裁判所ニ申立テ爲スヘキ旨ヲ告ケ謝絶スヘシ其場合ハ左ノ如シ

- 第一 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行ニシテ不動産(六四〇ヨリ七一六マテ)船舶(七一七ヨリ七二九マテ)ニ對スル強制執行及ヒ債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行(五九四ヨリ六二五マテ)

但前段第一號中有体動産中云々以下ハ此限ニ在ラス

第二 行爲ヲ爲サシムル爲メノ強制執行(七三三ヨリ七三六マテ)

強制執行ノ委任ハ債權者ヨリ裁判所書記ヲ經スシテ爲スヲ通例トス然レハ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲メ所屬ノ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルヲ得此時ハ執達吏ニ於テハ各執行行爲殊ニ取立タル金銭ノ引渡ニ關シテハ債權者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノトス又假令強制執行ハ訴訟代理人ヨリ委任ヲ受クルモ取立タル金銭其他物品ヲ代理人ニ引渡ササルヲ通例トス其代理人ニ渡スルハ必ラス債權者ノ求メアルカ又

ハ委任狀中ニ明記アル時ニ限ル其訴訟費用ニ付テハ代理人ニ引渡ス
 得ルニアリ(六五)

執行力アル正本ヲ受取リ強制執行ノ委任ヲ受ケタルハ別ニ陳述ナキ
 モ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ債務者ヨリ領收シ其領收シタルモノニ對シ受
 取證ヲ出シ及ヒ債務者完ク義務ヲ行ヒタルハ其執行力アル正本ヲ交
 付スルモノトス(五三三)故ニ執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シ執行力ア
 ル正本ヲ所持スルヲ必要トシ且強制執行ノ實施ヲ爲シ及ヒ其實施ノ
 爲メ必要ナル總テノ行爲ヲ爲スニ十分ナル證據ヲ備フルヲ必要トス
 執達吏強制執行ヲ實施スルニ當リ債務者及ヒ第三者ノ求アルトキハ右
 諸件ヲ具備スルヲ示シテ其資格ヲ證スヘシ(五三四)若シ債權者強制執
 行ニ立會フコトヲ求ムルハ立會ヲ爲サレハ施行スルヲ得ス

強制執行ハ債務者名義ノ執行力アル正本ニ基キテノミ之ヲ爲ス其正本
 ニハ必ラス法文ノ式ヲ認メアルモノナリ(五一七)此執行力アル正本ハ裁

判所書記之ヲ付與シ(五一六)公證人ノ作りタル證書ハ公證人之ヲ付與ス
 (五六二)其何レノ場合ニ於テモ法ニ適シタル執行文アリヤ否ヤヲ確カム
 ルヲ要ス又其執行文ニ制限アリタルハ其制限ニ從フテ執行スヘシ

執行ハ其執行文中名義ノ人ニ對シ爲スモノナレハ其名義ナキハ執行
 スヘカラス其委任者ニ於テ承繼ニ因リ指名シアル債權者ノ位置ヲ自ラ
 占ムヘキコト又ハ第三者ヲシテ指名シアル債權者ノ位置ニ當ラシム可
 キヲ主張スルハ更ニ執行文ヲ求ムル爲メ委任者ヲ受訴裁判所ニ移
 スヘシ(五一九、五二〇、五二一)債務者死亡ノ際已ニ之ニ對シテ開始シタル
 強制執行ハ其遺産ニ對シ之ヲ繼續スヘシ(五五二)

督促手續ニ依リ發シタル執行命令(三九三)并ニ假差押及ヒ假處分ノ命令
 (七四三、七五六)ノ正本ハ執行文ヲ要セス執行ヲ爲ス(五六〇)執行命令又ハ
 假差押及ヒ假處分ノ命令ニ於テ指名セサル者ノ爲メ若クハ指名セサル
 者ニ對シテハ執達吏ハ更ニ其者ヲ指名シタル執行文アルハ限リ債務

者名義ヲ執行スルヲ得(五六一、七四九)

外國裁判所ノ判決ニ付テハ本邦ノ裁判所ノ執行判決及裁判所書記ヨリ付與シタル執行文ニ依ルキニ限り執行ヲ爲スヲ得(五一四、五一六)

執達吏ハ總テノ場合ニ於テ執行力アル正本ハ條件到來以前ニ付與セラレタルモ其條件ノ到來シタル後ニ非サレハ強制執行ヲ實施スヘカラサルカ如キ條件付ノモノヲ精密ニ調査シテ自ラ之ヲ確カムルノ義務アルモノトス故ニ執達吏ハ執行力アル正本ヲ得ルトモ直チニ強制執行ニ着手シ能ハサルコトアル可シ

執達吏ノ注意スヘキ條件ハ大略左ノ如シトス

第一 債務名義ニ因リ日時ノ到來スルニ非サレハ請求ノ生セサル場合ニ在テハ執達吏ハ其日時ノ滿了後強制執行ヲ始ムルヲ得ヘシ(五二九ノ二)

第二 債務名義ニ於テ其執行ハ債權者ヨリ債務者ニ保證ヲ立テタル後

ニ之ヲ爲スヘキ場合ニ在テハ執達吏ハ債務名義ニ開示シタル保證額ヲ供託シタル公正ノ證明書ヲ得タル後強制執行ヲ始ムルコトヲ得ヘシ(五二九ノ二)

第三 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ強制執行ヲ爲スヘキキハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後強制執行ヲ始ムルヲ得ヘシ(五三〇)債權者自ラ右官廳ニ通知ヲ爲シタルキハ執達吏ハ其證書ヲ債權者ヨリ差出サシムヘシ

第四 強制執行ヲ始ムル前左ノ證書ヲ債務者ニ送達シタルヤ否ヤヲ吟味スヘシ

- 一 強制執行ノ基本トナル債務者名義即チ判決、公正證書ノ如シ
- 二 未必ノ條件附又ハ承繼アル場合ニ於テハ執行文又證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルキハ其證書ノ謄本但保證ヲ立ツルニ非サレハ執行ヲ爲スヲ得サルキノ如キハ執行文ノ送達ヲ要セサル

モノトス

三 第二ノ場合ニ於テハ保證ヲ立テタル公正ノ證明書
右證書一、二ヲ未タ送達セサルキハ執達吏ハ其送達ト同時ニ強制執
行ヲ始ム可シ

第五 破産手續續行中ニハ破産債權者ノ爲メ破産者ノ財産ニ付キ差押
又ハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス(此分ハ商法未タ實施ナキヲ以テ當分
不用ナリトス)

執達吏ハ強制執行ヲ爲スカ爲メニ債務者ニ損害ヲ被ムラシムヘカラス
(五三二)其執行ニ着手スルニ先チ債務者ニ任意ノ辨償ヲ催告シ若シ本人
ニ出會ハサルキハ其親族ニモ催告スヘシ此催告ニ因リ任意ノ辨償又ハ
其一分ノ辨償ハ執達吏之ヲ受取リ且之ヲ債權者ニ引渡スヘシ
執行ヲ爲スカ爲メ必要ナル時ハ威力ヲ以テ處分ス可シ此場合ハ警察上
ノ救助ヲ求メ若シ兵力ヲ要スルキハ裁判所ニ申立ツ可シ又債務者ノ住

所倉庫又ハ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉扉アレハ之ヲ開カシムヘシ此時ハ職工
ヲ用ヒ可成丈ク損毀ナキ様注意スヘシ(五三六)又證人ヲ立會ハシムルハ
ハ可成其地ノ住居人ニシテ事ニ關係ナキモノヲ選ム可シ(五三七)

強制執行ノ費用ハ強制執行ノ實施ト同時ニ債務者ノ有体動産ノ中ヨリ
取立ツ可シ(五五四)

執達吏ハ執行行爲ニ付調書ヲ作ルヘシ(五四〇、五四一)法律上要件ノ外總
テノ事柄ヲ之ニ認メ明確ニスヘシ其之ヲ作ルハ其場所ニ於テ爲ス可シ
執行ハ何人ノ異議アルモ之ヲ停止セズ只裁判上其他證明書ヲ提出スル
キハ之ヲ停止シ又ハ制限セサルヘカラス(五五〇、五五一)此場合モ調書ヲ
作り此事ヲ記入スヘシ

停止又ハ制限ヲ爲シタルトキハ債權者ニ通知ス可シ停止又ハ制限ニ付
テハ尙ホ左ノ諸件ヲ守ル可シ

第一 執行スヘキ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サ

ストノ宣言シ若クハ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ニ依リ債務者ニ於テ停止又ハ制限ヲ求ムルモ其裁判ノ執行ヲ爲スヘキモノナルヤ否ヲ調査ス可シ(執行ヲ爲シ得ヘキ裁判トハ假執行ヲ付シタル裁判又ハ確定裁判ナリ)上告審タル控訴院及ヒ大審院ノ爲シタル判決ハ證明書(四九九)ナキモ確定力アリ然レモ右欠席ナルモノ判決ハ確定ノ證明書アルヲ要ス又抗告審ニ於テ爲シタル裁判又ハ假執行ノ判決若クハ其假執行ヲ取消シタル裁判ハ何レノ場合ニ於テモ強制執行ノ停止ヲナスノ理由トナルモノナリ

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ナルモ右時間ノ滿了後執行ヲ繼續ス可シ

第三 執行スヘキ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタルモニ於テ更ニ債權者ヨリ求アルモ再ヒ強制執行ヲ繼續ス可キモノトス

債權者ノ申出アルモ何時ニテモ執行ヲ停止シ又ハ制限スヘキモノトス其申出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ調書ヲ作ルモ等何レモ記録ニ添附ス一時停止ノ場合殊ニ延期ノ場合ハ債權者ヨリ一定ノ期日ヲ指定セサリシモハ執行再始ニ付債權者ノ再度ノ申出ヲ待ツヘキモノトス一定ノ期日ヲ指定シタル場合ハ右期日到来後直チニ其強制執行ヲ繼續スヘキモノトス

第二款 有体動産ニ對スル強制執行

有体動産ニ對スル強制執行ハ其物件ヲ差押及ヒ換價ニ依テ爲スモノトス(五六四乃至五九三)

債務者ノ住居ニ於テ本人ニ出會ヒタルモ任意辨償ヲ爲シテ債權者ヲ満足セシム可キ催告ヲ爲スモ其效ヲ見サル場合ニ於テハ執行ノ目的上必要トスル限度ニ於テ債務者ノ住居、倉庫ノ戸扉及ヒ筐匣ヲ開キ且債務者ノ財産ヲ點檢ス可シ

債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最モ放チ易キ財産中殊ニ金錢、有價證券及ヒ金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物ニ付テ差押ヲ爲スヘシ

何レノ物ニテモ差押ヲ爲シタルハ調書ニ其物ノ概算價額ヲ記入シ差押物ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟シ及ヒ執行費用ヲ償フニ足ルヘキ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムルヲ要ス

差押フヘカラサル物ノミナルハ又ハ全ク價值ナキ物ノミナルカ又ハ其物ヲ賣却スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキ(五六四ノ二)カ爲メ差押ヲ爲サ、ルハ執達吏ハ其物ノ種類、性質及ヒ價值ノ概況ヲ調書ニ記シテ之ヲ差押ヘサルヲ證シ置クヘシ其高價物又ハ當然差押フヘキ物及差押ヲ爲スニ疑アル物ニ付テハ常ニ其各物ヲ詳細ニ記載シ其他ノ物ニ關シテハ該物ノ種類ヲ記シ法律上差押フヘカラサル物ナル旨ヲ證スルヲ以テ充分トス

差押ノ際債務者ノ占有スル財産ニ付キ債務者ヨリ第三者ノ爲メニ請求ヲ爲シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ爲スアルモ之レカ爲メ差押ヲ止ムヘカラズ然レトモ其要求ヲ財産ノ或ル一分ノミニ付キ爲シタルハ之ヲ差押ヘサルモ債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホサ、ルヤ否ヤヲ斟酌シ若シ其請求ヲ爲シタル物ヲ除キ他物ヲ以テ債權者ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキトキニ限り其請求ニ係ル物ノ差押ヲ止ムルヲ得

執達吏ハ如何ナル場合ト雖モ債權者ノ諭告アルハ其諭告ヲ守ルヘシ

第三者ノ申出アルモノヲ差押ヘタルハ執達吏ハ其請求ヲ裁判所ニ依リ主張スヘキヲ諭示シ(五四九、五六五、五四七)且必要ナリト認ムルハ請求ノ申出ヲ債權者ニ通知ス可シ

債務者ノ占有中ニ在ル有体動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲スルニハ有効タリ(五六六)故ニ其目的ヲ達スル爲メニハ債務者ヨリ其物ヲ取上ケ債務者ニ保管ヲ爲サシムル外ハ其占有ヲ引離ス可シ執達吏ハ

差押へタル物ノ貯藏及ヒ保管ヲ爲シ又ハ必要ナルキハ換價スルマテ其物ヲ保全スル義務アリ其貯藏殊ニ其物ノ運搬ニ關シ又ハ管理人若ハ保存人ノ任命ニ關シ無益ナル費用ヲ來サ、ルヲ及ヒ右保存人等ヲシテ規定ニ背戾セシメサルヲノ責ニ任スルモノトス以上ノ處分ハ差押調書中ニ之ヲ記載スヘシ

金錢ハ遲クモ差押ノ日ヨリ二日内ニ之ヲ債權者ニ引渡スヘシ(五七四)又ハ供託ヲ爲サ、ルヲ得サルキハ之ヲ供託スヘシ其引渡又ハ供託ヲ爲スマテハ土藏ニ入レ保存スヘシ其保存ノ爲メ要スル費用アルキハ實費トシテ豫納セシムヘシ貯藏スルニ適當ナル差押物ヲ差押へタルキハ左ノ區別ニ依リ處分スヘシ

一、執達吏ノ住所地ニ於テ差押へタルキハ差押物貯藏所ニ之ヲ保存スルモノトス

二、其住所地外ニ於テ差押へタル物ニ付テハ其事情殊ニ將來競賣ヲ

爲スヘキ土地ノ關係ニ依リ之ヲ差押物貯藏所ニ運搬スルヲ適當トスルヤ又ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存スヘキヤヲ定ム可シ

差押物貯藏所ヲ有セサルキ又ハ之ヲ有スルモ其物ノ性質ニ依リ又ハ其他ノ理由殊ニ執達吏ノ住所地外ニ於テ差押へタル物ニ付之カ爲メ許多ノ費用ヲ増スニ依リ在來ノ貯藏所ヲ使用スヘカラサルカ若クハ之ヲ使用スルノ不利益ナルキニ於テハ其差押物ハ其差押へタル土地ニ住居シテ信用アリ且辨償能力アル者ニ託シテ保存ヲ爲サシム可シ
○其委託ヲ受ケタル者ハ其求ニ依リ委託物ノ目錄ヲ領收ス其保存ニ關スル報酬ハ成ル可ク前以テ之ヲ確定スヘシ執達吏ハ保存人ヨリ受取證ヲ取り又保存人ノ求ニ因リ該證書ノ謄本ヲ交付ス可シ保存人任命ニ關シ必要ナルキハ調書ヲ作り差押調書ニ添付スヘシ此調書ハ左ノ件々ヲ掲クヘシ

第一 保存人トナシタル約定

○有体動産ニ對スル強制執行

- 第二 物ノ交付ニ關スル保存人ノ認諾
- 第三 保存ノ爲メ交付シタル物ノ記載
- 第四 保存人ノ署名捺印

高價物即チ金銀物及ヒ有價證券ハ他人ノ金錢ヲ保存スルキノ如ク之ヲ密封シ其封皮上ニ物ノ名稱及ヒ事件ノ番號ヲ記載ス可シ

執達吏ハ差押物ヲ債務者ニ保管セシムルヲ得ヘシ其場合ハ左ノ如シ
(五六六ノ二)

- 第一 債權者ノ承諾アルキ
 - 第二 運搬ヲ爲スニ付重大ナル困難アルキ
- 右保管セシムルキハ差押ヲ明白ナラシムル爲メ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テシテ左ノ如ク爲ス可シ
- 第一 債權者ノ承諾ニ付テハ債權者ノ書面又ハ口頭陳述ノ書取又ハ執達吏ノ執行記録ノ記載ヲ以テ之ヲ明確ニス可シ

- 第二 封印又ハ其他ノ方法ヲ爲スニハ各差押物毎ニ其差押ヲ明カニス可シ此目的ヲ達スルニハ各差押物毎ニ封印スヘキカ又ハ其物ノ存在スル筐匣、室、倉庫等ノミニ封印ス可キカニ付テハ其物ノ性質其他ノ事情ニ從ヒ之ヲ定ム可シ其封印スルキハ其封印又ハ筐匣等ヲ損傷スルニアラサレハ物品ヲ取出シ得サルコトニ注意スヘシ其物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ得ヘカラサルカ又ハ差押物ノ標目ヲ附シ得サルキハ執達吏ノ署名シタル告示ヲ差押物ニ接近セシ各人ノ見易キ場所ニ貼附スルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之ヲ知ラシムヘキモノトス此時必要ト認ムルキハ其管理人ヲ任命スヘシ
- 第三 差押物ノ占有已ニ歸シタル旨及債務者其物ヲ處分シ若クハ封印ヲ破壊シ爲メニ法律上ノ罰ヲ受クルコトナキ様注意スヘキ旨ヲ債務者ニ諭示ス可シ
- 第四 差押調書ニハ差押物ヲ債務者ノ保管ニ任セタル理由、封印ノ數

及ヒ其差押ノ告示并ニ保全ノ爲メ爲シタル處分ヲ記載シ且第三ノ規定ニ從ヒ債務者ニ諭示ヲ爲シタル旨ヲ記載ス可シ

借第三者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求めルル(五六七)ハ先第三者ニ對シテ其物ヲ直チニ引渡シ得ルヤ否ヤヲ訊問スヘシ第三者之ヲ承諾スルルハ債務者ノ占有スル物ヲ差押フルト同シク差押ヲナス可シ之ニ反シ物ノ提出ヲ拒ミ又ハ占有ニ付キ異議ヲ述フルトキハ執達吏ハ調書ヲ作り其後ノ事ハ債權者本人ノ處分ニ任ス可シ其債權者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求めルルハ通常ノ手續ヲ以テ直チニ差押ヲ爲スヘシ以上何レノ場合ニ於テモ差押ヘタル事ヲ債務者ニ通知スヘシ(五四一)

總テ差押ニ付キ調書ヲ作ルニハ左ノ諸件ヲ記載スルモノトス(五四〇)

第一 調書ヲ作りタル場所年月日

第二 執行行爲ノ目的物及其重要ナル事情ノ略記

- 第三 執行ニ參カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其後署名捺印ヲナシタルノ開示
- 第六 執達吏ノ署名捺印
- 第七 各物ノ概算價額ヲ附シタル差押物ノ詳細ナル記載又必要ナルルハ員數、尺度、重量等ノ記載
- 第八 執達吏物ヲ占有シタルノ記載
- 第九 保存ノ際爲シタル處分ノ記載
- 第十 債務者ニ差押ヲ通知シタルノ及如何ナル方法ヲ以テ通知ヲ爲シタルヤノ記載
- 第十一 競賣期日ノ日時場所若シ此期日ヲ直チニ定ムルヲ得サルルハ其理由ノ記載

○有体動産ニ對スル強制執行

右ノ外調書ニハ差押ノ方法又ハ差押ノ際特別ノ事件ニ付別ニ規定シタル事項ヲ記載ス又調書ノ謄本ヲ債務者ニ送達セシキハ調書ノ附録トシテ其旨ヲ附記スヘシ(五四一)

差押物ノ換價ハ執達吏別ニ債權者ノ委任ヲ待タズ直チニ競賣ニ着手スルモノトス(五七二乃至五八四)

差押物中高價物アルハ適當ノ鑑定人ヲシテ評價セシムヘシ(五七三)評價ヲ調書ニ記載セサルハ鑑定人ヲシテ別ニ評價書ヲ作ラシム可シ

執達吏ハ其如何ナル方法ヲ以テ賣却スルモ自ラ之ヲ買取リ又ハ家族又ハ他人ニ依テ之ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ラシムルヲ許サス又競賣補助ノ爲メ立會ハシメタル者ヲシテモ競賣ニ加ラシムルヲ得ス

競賣ヲ爲スハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲スヘシ但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スノ合意アルハ又ハ裁判所ヨリ

其場所ヲ指定シタルハ其場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ(五七六ノ一、五八五)其裁判所ヨリ指定アラノヲ求ムル場合ハ債權者ノ利益ノ爲メ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ爲スヲ必要トスル場合就中差押ヲ爲シタル場所ニテハ相當ノ價額ヲ得ル能ハサル場合又ハ差押ヘタル物ヲ保管スル爲メ他ノ場所ニ貯藏シタル場合ニ於テハ執達吏ヨリ債權者ニ其旨ヲ通知シ若シ債權者ト債務者ノ間ニ於テ他ノ場所ニテ競賣ヲ爲スノ合意整ハサルハニ競賣場所指定ヲ求ムルニアリトス

競賣期日ハ執達吏差押ノ際之ヲ定ム若シ債權者及ヒ債務者後日ニ期日ヲ定ムルヲ承諾シタル場合又ハ直チニ期日ヲ定ムル能ハサル特別ノ場合若シハ直チニ定ムルノ便益ナラサル場合例ヘハ土地ヨリ離レサル果實又ハ蠶ヲ差押ヘタルモ其果實ノ成熟時期又ハ蠶ノ繭ト爲ル時(五六八、五八四)ヲ知ル能ハサル場合又ハ執行裁判所ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若シハ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ命セラル可キ場合ニ於テハ一時

期日ヲ定ムルヲ猶豫ス可シ後ニ至リ定ムルハ之ヲ債權者債務者ニ通知ス可シ

差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ノ時間ハ其物ノ性質、價額ニ適當ノ方法ヲ以テ競賣ノ日時及ヒ場所ヲ公告シ得ヘキ様之ヲ定ム可シ但通例右ノ時間ハ少クモ七日ナリトス(五七五)然レトモ場合ニ依リ之レヲ延長スルヲ及ヒ短縮スルヲ得ヘシ

競賣ハ前以テ之ヲ公告ス(五七六ノ二)公告ハ揭示板ニ貼付シ又ハ新聞紙ヲ以テスルモ好シ其公告ニハ左ノ事ヲ記載スヘシ(五七六ノ二)

第一 競賣スヘキ物品ノ略記例ヘハ家具、寢具、衣類等ノ如シ

第二 競賣ノ日時及ヒ場所

公告ヲ爲シタル方法日時ハ之ヲ調書ニ附記シ又ハ其證據アレハ之ヲ添附シ明確ニス又巳ニ公告シタル日時ヲ改メントセハ更ニ公告シ前ノ公告ヲ取除ク可シ

競賣期日前ニハ競賣物ト差押調書ト比照シ且準備ヲ爲スヘシ若シ差押物ニ不足アルキ又ハ毀損アリタルキハ其旨ヲ調書ニ記入シ若シ其物ヲ保存人ニ委託シアリタルキハ此物ノ返還ノ際作ルヘキ調書ニ其旨ヲ記入シ各差押物ノ不足、毀損ニ付テノ調書又ハ調書ノ附録ハ其賸本ヲ以テ債務者ニ通知シ又其保存人ヨリ差押物ヲ正當ニ返還シタルノ證ヲ求ムルトキハ執達吏ハ之ヲ交付ス可シ

期日ニハ先ツ賣却條件ヲ告知ス可シ其條件ハ法律上(五七七)定メタルモノト異ナル處分ハ裁判所ノ命アルカ又ハ債權者債務者ノ合意ニ依ルニアラサレハ之ヲ許サス○賣却條件ヲ告知ノ後競買ヲ催告スヘシ競賣ニ附シタル物ハ競賣調書ニ記入スヘシ賣却物ハ一々之ヲ呼上ケ賣物ヲ示ス可シ高價物ハ其評價ヲ告ケ金銀物ハ其實價ヲ告ケテ競買金額ハ其評價若クハ實價ヨリ低價ノ競買ヲ許サ、ル旨ヲ告ク可シ(五八〇)

○有体動産ニ對スル強制執行

綿密ニ附記シ又其代價ヲ支拂ヒタルキハ直チニ其旨ヲ附記ス可シ競賣ニ付スル物ノ不相當ニ過分ナルヲ避ケン爲メ執達吏ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルキハ直チニ競賣ヲ止ムモノトス(五七八)

又競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキカ爲メ競落ヲ爲シ得サルキハ其競買價中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記ス可シ(五八〇)

競賣ノ際作ルヘキ調書ハ普通執行行爲ニ付キ作ルヘキ外ニ尙ホ左ノ事項ヲ掲ク可シ(五四〇)

第一 競賣ノ賣得金ヲ以テ辨濟ス可キ債權及ヒ強制執行ノ費用ノ合計額

第二 若シ賣却條件カ法律上(五七七)ノ規定ニ異ナレル場合ニ於テハ其賣却條件ヲ掲ク可シ

第三 競賣物ヲ列記シ且其各物ニ付競落人及ヒ其最高競買價額ヲ記載シ並ニ代金支拂高ノ旨ヲモ附記ス可シ

調書ニ署名捺印ヲ要スル者ハ競買人中唯ダ各最高價申出人ニ限ル若シ此等ノ者期日ノ終結前ニ退散シタルキハ其署名捺印セシムルヲ能ハサル理由ヲ調書ニ附記スヘシ(五四〇ノ三四)

差押物ヲ競賣ノ方法ニ依ラヌシテ換價スル場合ハ左ノ如シ

第一 執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラヌシテ換價ヲ爲スヘキヲ命シタルトキ(五八五)

第二 有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノタルキ(五八一以下)

第三 金銀物ニシテ已ニ競賣ニ付シタルモ其最高競買價額カ其實價ニ至ラサルトキ(五八〇)

右賣却ハ直接ニ債權者ニモ亦之ヲ爲スヲ得何レノ場合ニ於テモ成ル

へシ高價ニ賣却スヘキヲニ注意スヘシ就中金銀物ヲ其實價ヨリ低價ニ賣却シ又ハ有價證券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ低價ニ賣却スヘカラス債權者ト債務者トノ間ニ合意アラサルキハ必ラス代金ト引換ニアラサレハ買主ニ賣却物ヲ渡スヘカラス(五七七ノ二)

執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲スヘキヲ命セラレタルキハ之ヲ守ルヘシ此賣却ノ際作ル調書ニハ尙ホ普通ノ外左ノ諸件ヲ記載ス可シ

第一 競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價シタル理由

第二 賣却物ヲ綿密ニ記載シ且金銀物ノ評價額又ハ有價證券ノ賣却日ノ相場又ハ執行裁判所ノ定メタル價額

第三 賣買ノ行爲及ヒ其履行方法

金錢ノ債權ニ付キ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ有價證券ハ有體動産ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ差押ヘ競賣ニ付スルカ又ハ競賣ノ方法ニ依ラス

シテ換價スヘシ其無記名ト記名トニ依リ左ノ區別アリ

無記名證券ニ付テハ各所有者ハ第三者ニ對シ此證券並ニ之ニ基ク權利ヲ自由ニ處分スルヲ得ヘシ

記名證券ニ付テハ唯其記名者又ハ讓渡ノ後ニ在テハ讓渡證書ニ記名アル者ニ限リ此證券ヲ處分スルヲ得ヘシ

有價證券賣却ノ際執達吏ハ最注意シテ執務スヘシ殊ニ其賣却方法ニ付特ニ執行裁判所ノ命ナキトキハ之ヲ競賣ニ付スルヤ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルヤハ其有價證券カ取引所相場又ハ市相場アルモノナルト否トニ關係スルモノトス此場合ニ於テハ先ツ其日ノ相場ヲ確實ニ探知シ就中新聞紙ノ相場表ニ依リ又ハ此等ノ證券ヲ取扱フ官廳又ハ其營業人ニ付キ探知ス可シ又有價證券ニシテ相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ競賣方法ヲ以テ賣却スヘシ(五八一)其相場アルモノハ營業人ノ媒介ヲ求ムルヤ又自ラ其周旋ヲ爲スヤハ執達吏ノ見込ニ任ス其營業人

ノ媒介ヲ求ムル時ハ賣却ニ關スル調書ニ換ヘ其計算書ヲ執行記録ニ付ケ置ク可シ何レノ場合ニ於テモ證券ハ代金支拂濟ニアラサレハ之ヲ引渡スヘカラス(五七七ノ二)

賣却ヲ十分ニ施行完結スル爲メ執達吏ハ記名ノ有價證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ又無記名ノ證券ニシテ其流通ヲ止メタルハ直チニ其流通回復ヲ爲スヘキモノトス(五八二、五八三)又其賣却前ニ氏名ノ書換又ハ流通ノ回復ニ付必要ノ陳述ヲ爲ス權利ヲ得ル爲メ債務者名義ノ證及ヒ差押調書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出ツ可シ

無記名證券ノ流通回復ニ付テモ亦賣却前ニ管轄官廳ニ届置キ又記名證券ノ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲スコトハ賣却後其證券ヲ出シタル會社等ニ至リ之ヲ施行スヘシ

手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヨリ生スル第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ執達吏

ハ第三款ノ初メニアルカ如キヨリモ一層注意シ取扱フヘシ債務者カ此債權ヲ以テ自己ノ義務ヲ履行セントスルハ其裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヲ執達吏ニ示スヘシ此債權ノ差押ヲ爲サントスルハ普通債權ノ如ク執行裁判所ノ決定ヲ要セス其證券ヲ占有シテ差押ヲ爲ス可シ(六〇三)此債權ノ額及ヒ其時期ノ不明瞭ナルハ執達吏ハ其債權ノ差押ヲナスニ當リ債務者ヨリ之ヲ明示シタルハ非サレハ差押ヲ施行セサルヲ通例トス若シ此明示ナキモ他ニ差押フヘキ物ナキ場合若クハ其差押フヘキ物不十分ナル時ニ限リ此債權ヲ差押フヘシ差押タルハ他ノ物ト同一ニ債權者及ヒ債務者ニ之ヲ通知スヘシ但債權者ニハ差押調書ノ謄本ニ認證ヲ附シテ之ヲ通知スヘキモノトス占有ノ證券ハ之ヲ密封シ其封皮上ニ物ノ名稱及ヒ事件ノ番號ヲ記スヘシ
右ノ差押調書ハ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 差押タル債權ノ明示即チ其品名、金額、期限及ヒ此證券ニ關係ア

ル債権者、債務者ノ氏名

第二 證券ヲ正當ニ占有シタル

以上ノ外尙ホ執行上ノ處分ハ普通ノ債權ニ係ルモノト同シク債權者ノ申立ニ依リ執行裁判所之ヲ施行ス

差押タル債權ヲ債權者ニ移付シ又ハ債權者ノ委任スル執達吏ニ引渡ス
イテ命スル旨ノ裁判所ノ決定ノ正本ヲ債權者ヨリ提出シタルキハ執達吏ハ差押タル債權ニ關係ノ證書類ヲ債權者ニ引渡スヘシ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ記録ニ添付スヘシ

債權ノ差押ヲ解キタルキハ此債權ニ關係ノ證書類ヲ債務者ニ返付ス可シ

土地ヨリ離レサル果實及ヒ蠶ノ差押賣却ハ有體動産ニ關スル上來ノ規定及ヒ法律上ノ規定(五六八、五八四)ニ對シテ其處分ヲナシ其差押ヘタル
且之ヲ占有シタルイテ適宜ノ方法ヲ以テ差押標示ヲ爲シテ之ニ明記

シ且之ニ記名シテ差押ノ告示ヲナシ又ハ此他適宜ノ方法ニ依リ各人ニ差押ノ旨ヲ知ラシム可シ又已ムヲ得サル場合ニ於テハ管理人ヲ任命スルモノトス此管理人ニハ競賣期日ヲ定メテ公告シ且果實ノ成熟ニ過キ又ハ蠶繭ノ收穫時期ヲ過キ損害ヲ生セサル爲メ管理人ヲシテ適當ノ時期ニ於テ報告ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハシムヘシ

右差押調書ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 果實ニ付テハ地所ノ位置、面積ノ概略、果實ノ種類

第二 蠶ニ付テハ其所在ノ場所、數量ノ概略、繭ノ種類即チ春繭、夏繭ノ類

第三 差押ヘタル果實又ハ蠶繭ニ付キ賣得金ノ見積リ額

第四 差押ヲ爲シタルイテ告知スル爲メ設ケタル方法若シ管理人ヲ任命シタルキハ其理由

第五 收穫ノ時期

○有體動産ニ對スル強制執行

競賣ハ收穫ノ時期ニ至リタルキニ限り之ヲ許ス又競賣ヲ收穫前ニ施行スヘキヤ又ハ之ヲ收穫後ニ施行スヘキヤ全部一時ニ之ヲ競賣ニ付スヘキヤ又ハ一分ツ、競賣ニ付スヘキヤハ執達吏時宜ニ依リ之ヲ定ムヘシ執達吏收穫後ニ競賣ヲ爲ストキハ收穫ノ爲メ信用スヘキ人ヲ雇ヒ收穫物ヲ安全ニ運搬セシメ且競賣期日マテ之ヲ保存スルノ處分ヲ爲スヘシ又執達吏必要ト認ムルキハ收穫物ノ數量ヲ保全スル爲メ收穫ノ際監督ヲ爲ス可シ收穫ノ爲メ要スル費用ハ成ルヘク前以テ之ヲ定ムヘシ收穫前ニ競賣ヲ爲ストキハ其地所又ハ其場所ニ於テ之ヲ施行スヘシ第一債權者ノ爲メ既ニ差押ヘタル物ニ付第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ更ニ之ヲ差押フルヲ得ス但假差押ニ係ル物ニ付テハ此限ニ在ラス第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ已ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覧ヲ求メ其債務者ノ有体動産中ニ未ダ差押ヘサル物アルヤ否ヤヲ照査シ未ダ差押ニ係ラサル物アルキハ之ヲ差押ヘテ已ニ

差押ヲ爲シタル執達吏、其調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ併セテ競賣ニ付スヘキヲ求ムヘシ若シ差押フヘキ物アラサルキハ照査調書ヲ作り右執達吏ニ之ヲ交付シ且第二債權者ノ爲メ配當要求ヲ爲ス可シ但照査調書ニハ差押調書ト債務者ノ有体動産ト相對照シテ差押フヘキ物アラサル旨ヲ記載スルヲ以テ十分トス右ノ要求アルトキハ第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ別ニ委任ヲ要セスシテ第二債權者ノ委任ヲ受ケタルモノトシテ處分スヘシ(五八六)

右ノ場合ニ於テ若シ第一債權者ノ爲メニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルキハ執達吏ハ第二債權者ヲ以テ差押債權者ト看做シ爾後ノ手續ヲ續行スヘシ(五八七)

執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル場合及ヒ民法ニ從ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要スル場合(五八九、五九〇)ニ於テハ執達吏ハ配當要求ノアリタルヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知スヘシ

○有体動産ニ對スル強制執行

債務者二日以内ノ期間内ニ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ヲ認諾セ
サル者ヲ申立ツルトキハ執達吏ハ直チニ其配當ヲ要求スル債權者ニ之
ヲ通知スヘシ(五九一)

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍
艦ニ於テ差押ヲ行フヘキ權ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニア
レハ執行裁判所ニ申立テ囑託ニ因リテ差押ヲ爲ス然レモ其後ノ手續ハ
執達吏ニ屬スルモノトス(五五六)執達吏ハ此手續ヲ行フカ爲メ債務名義
ノ證ヲ提出セシメ且執行裁判所ノ命ニ依リ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官
若シハ隊長ノ屬スル官廳ヨリ差押物引渡ノ通知アルヲ待ツカ又ハ該廳
ニ債權者ノ委任ヲ示シテ其引渡ヲ求ムヘシ又引渡ヲ受クル際其差押物
ト其差押ノ調書ト比較シ不足或ハ毀損シタル物アレハ之ヲ記載シ直チ
ニ競賣期日ヲ定ム可シ

強制執行ニ依リテ得タル金銭ニ關シ計算ヲ立テ各債權者ニ屬スヘキ金

額及ヒ執行費用ヲ記録ニ明記シ其剩餘額アレハ之ヲ記載スルヲ要ス
之ヲシテ各債權者ニ屬スヘキ金額ヲ即時ニ支拂ヒ尙ホ剩餘アレハ債務
者ニ還付ス○郵便爲替ヲ以テ送金セシトキハ郵便局ノ受取證其他ノ方
法ニ依リ送金セシトキハ受取人ノ受取證ヲ記録ニ添付シテ保存スヘシ
強制執行ノ費用中ニハ證人鑑定人管理人及保存人ニ支拂フ費用モ包含
セリ

執達吏夫々配當スルキニ於テハ債務者ハ其義務ヲ完全ニ盡シタルモノ
ナレハ執行力アル正本及ヒ受取證ヲ交付シ其一分ノ義務ヲ盡シタルト
ハ執行力アル正本ニ其旨ヲ記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付スルモノト
ス(五三五)一何レモ計算書ヲ債務者ニ交付スヘシ
強制執行ニ依リ得タル金額(賣得金及ヒ差押金銭)ヲ以テ其配當ニ與カル
各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルト先ツ其各債權者ヲシテ配當ノ
協議ヲ爲サシムヘシ協議調ヒタルトキハ其協議ノ如ク配當シ協議調ハサ

○有休動産ニ對スル強制執行

ルトキハ供託規則ニ從ヒ其金額ヲ供託シ其協議調ハサル事情ヲ裁判所ニ届出テ同時執行ニ關スル一切ノ書類ヲ裁判所ニ差出スモノトス(五九三)

執達吏ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セザリシ差押物又ハ強制執行中裁判所ノ裁判若シハ債權者ノ免除ニ依リ差押ヲ解除シタル物ヲ即時ニ債務者又ハ領收權利者ニ交付スヘシ其受取證ハ之ヲ一件記録ニ添附シテ保存ス可シ

第三款 債權ニ對スル強制執行

第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有体物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノ、強制執行ハ執達吏ノ專行ニ任セス執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(五九四) 金錢ノ債權ヲ差押フルトキハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スヘカラサルヲ命

令スルモノトス(五九八)差押ヘタル債權ニ付債權者カ代位ノ手續ヲ要セスシテ直チニ之ヲ取立ツルヤ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ轉付スルヤハ債權者ノ選擇ニ任カシ裁判所ハ命令ヲ付與スルモ(六〇〇)其命令ノ送達ハ執達吏ニ屬シ且下ノ特例ニ從フヘシ即チ債權者第三債務者ヲシテ法律上(六〇九)ノ陳述ヲ爲サシメノヲ申立テタルモ裁判所カ差押命令ヲ第三債務者ニ送達セシムル場合ニ於テハ郵便ニ依リ送達方法ヲ用ヒス普通ノ送達方法ニ依ル執達吏ハ即チ右命令ヲ速ニ第三債務者ニ送達シ且其送達證書ニ送達時刻ヲ記スヘシ又執達吏ハ右送達ニ際シ第三債務者ヲシテ法律上(六〇九)ノ陳述ヲ送達證書ニ記入セシムヘシ又ハ七日ノ期間内ニ通知セシムルノ催告ヲ爲スヘシ第三債務者直チニ右陳述ヲ爲サスシテ送達後ニ之ヲ爲ストキハ執達吏ハ速ニ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ 債務者ハ其轉付シタル債權ニ關スル所持ノ證書ヲ債權者ニ引渡ス義務

アリ(六〇六)執達吏ハ債權者ノ求ニ因リ執行力アル債務名義ノ證及ヒ轉付ノ命令ニ基ツキ強制執行ノ方法ヲ以テ前ノ證書ヲ債務者ヨリ引渡サシム可シ但轉付ノ命令ハ遲シトモ此強制執行ノ開始前ニ債務者ニ送達スルコトヲ要ス若シ其引渡サシムヘキ證書カ轉付ノ命令中ニ十分明記シアラヌシテ債務者ニ就キ之ヲ穿鑿シ得サルモ其旨ヲ債權者ニ通知スヘシ此時ハ債權者ハ命令ノ補充ヲ裁判所ニ申立ツ可シ
以上ノ他ハ有体動産引渡ニ關スル手續ト同一ナリトス

第四款 不動産及ヒ船舶ニ對スル強制執行

不動産ノ競賣ハ執行裁判所ノ命ニ依リ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏之ヲ爲ス(六五九ノ二)執達吏ハ法律(六六二)ヨリ六六九マテニ定メタル手續ニ從ヒ競賣ヲ取扱フヘシ就中競賣ニ際シ利害關係人(差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者、債務者、登記簿ニ記入アル不動産上權利者、不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ

備フヘキ届出ヲ爲シタル者ヲ包含ス)カ或ル競買人ニ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルモ其競買人ノ申出テタル價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預ケタル後ニアラサレハ其競買ヲ許スヘカラス(六六四)此他性質ニ於テ許ス限リハ動産競賣ノ手續ヲモ準用スヘシ

同一ノ債權者ノ爲メ動産競賣ト不動産競賣トナ同時ニ爲スヘキ場合ニ於テ動産ノミチ競賣シテ債權者ノ請求ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ見込ナルトキハ先ツ動産ノ競賣ヲ爲スヘキコトヲ裁判所ニ申立テ其指揮ヲ受クヘシ
競賣期日ニ於テ許スヘキ競買價額ノ申出ナキモ(六五五)ハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ(六七〇)

競落ヲ許ス決定アリタル後債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ム場合ニ於テ裁判所ノ命アルトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ(已)ヲ得サル場合ニ於

テハ威力ヲ用フ其不動産ヲ管理人ニ引渡スヘキモノトス(六八七)
 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルハ裁判所ハ職權
 ナ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス其期日ハ少クモ十四日ノ後トス然レモ競
 落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒテ
 ルハ再競賣手續ヲ取消ス再競賣ヲ爲スルハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハ
 ルコト許サス其再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キハ不足ノ
 額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キハ剩餘ノ額ヲ請求スルコト許サス
 以上ノ他ノ手續ハ最初ノ競賣ノ手續ト同一トス(六八八)
 何レノ場合ニ於テモ競賣ヲ終リタルハ其調書及ヒ競買保證ノ爲メ預
 リタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノ其他關係書類等ヲ悉皆
 取纏メ三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ
 裁判所ヨリ不動産ノ入札拂ヲ命シタルハ執達吏ハ法律上ノ定メタル
 入札(七〇三)ヲ差出サシメ其期日ニ於テ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封

シ一々朗讀ス二人以上同價額ノ入札アルハ其者ヲシテ追加
 ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム入札中一定ノ金額ヲ以テ入札價
 額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札
 ハ之ヲ許サス(七〇四)
 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者保證ヲ立ツヘキ求アルモ之ヲ立テ
 サルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム此時ハ最初呼上
 ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務
 アリトス(七〇五)
 以上ノ他ハ競賣ト同一ナリトス(七〇二)
 裁判所ヨリ船舶ノ競賣若クハ入札拂ヲ命セラレタルハ執達吏ハ不動
 産ノ競賣若クハ入札拂ニ關スル手續ト同一ナリトス(七一七)

第五款 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ強制執行
 特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシムヘキ強制執行ハ執達吏

○金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ強制執行

其執行力アル債務名義中ニ包含シタル物ヲ債務者ニ就キ索出シテ之ヲ取上ケ債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス(七三〇)

右動産ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フヲ要ス若シ直チニ之ヲ引渡ス可ハサルハ債權者ヨリ差圖アルマテ之ヲ保存スヘシ此執行ニ關シ調書ヲ作ルハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 債務者ヨリ取上ケタル特定動産又ハ代替物ノ箇數、度量又ハ有價證券ニ係ルハ其券面額、番號、日附

第二 物ヲ債權者又ハ其代理人ニ引渡若クハ輸送シタル旨又未タ之ヲ爲サ、ルハ其理由及ヒ其保存ノ方法

取上ケタル物ヲ債權者ニ引渡シタルハ其受取證ヲ取り置ク可シ
不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡サシム可キ強制執行ハ
執達吏債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメテ之ヲ爲スモノ
トス(七三一)此執行ハ債權者又ハ其代理人ノ立會ヲ必要ト爲スニ依リ執

達吏ハ執行ノ際之ヲ出頭セシメ且必要ナル事項ニ付豫メ債權者ト協議シ其意ヲ承ケテ之ヲ處分シ無益ノ日時ヲ費サ、ルヲニ注意スヘシ

住家明渡ノ際債務者ノ動産類即チ強制執行ノ目的物ニアラサル物ハ之ヲ取除キ債務者ニ引渡スヘシ若シ不在ナルハ代理人又ハ成長シタル家族若クハ雇人ニ引渡スヘシ右ノ總テノ人不在ナルハ債權者ノ費用ヲ以テ保管ニ付スヘシ(七三一ノ三及ヒ四)右ノ物ヲ債務者ニ返還シタルハ其受取證ヲ取り置クヘシ

債務者右ノ物ヲ受取ラサルハ其事情ヲ具シテ執行裁判所ノ許可ヲ得差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ賣却シ其費用ヲ扣除シタル上殘金ハ之ヲ供託ス可シ(七三一ノ五)

右執行ニ付調書ヲ作ルハ左ノ諸件ヲ掲クヘシ(五四〇)

第一 債權者又ハ其代理人ノ出頭シタルヲ

第二 引渡又ハ明渡シタル物及ヒ其場所ニ現在スル付屬物、器具ノ明

細

第三 債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタルヲ

第四 債務者ノ動産ヲ保存シタルハ其理由、種類並ニ其處分方法

第六款 債務者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行

債務名義ノ執行ニ當リ其行為ヲ耐忍スヘキ義務アル債務者ノ之ニ抵抗スルハ債權者ハ之ヲ除去スル爲メ執達吏ヲ立會ハシムルヲ得立會ヒタル執達吏ハ債權者ノ提出スヘキ債務名義ノ證ニ依リ債權者又ハ其代理人カ如何ナル行為ヲ爲スノ權利アリヤ及ヒ債務者カ如何ナル程度マテ耐忍スヘキ義務アルヤヲ明細ニ調査スヘシ債權者ノ中立正當ナルトキハ執達吏ハ債務者ヲシテ其義務ヲ盡サシメノヲ務メ又必要ナル場合ニ於テハ威力ヲ用ヒテ執行スヘシ然レトモ可成的強制手段ヲ用ユルヲナクシテ抵抗除去ニ必要ナル程度ヲ越ヘサルヲニ注意スヘシ

右ノ調書ニハ左ノ二件ヲ具備スヘシ

第一 債務者ノ耐忍シタル行為

第二 用キタル強制手段

第七款 證人勾引ニ關スル執行

證人ヲ勾引スルハ執達吏ハ勾引狀ヲ證人ニ示シタル後之ヲ其裁判所ニ引致ス(二九四)證人疾病等ニテ勾引スルヲ能ハサルコト醫師ノ診斷書又ハ實驗ニ依リ認知スルハ引致ヲ停止ス此時ハ其理由ヲ調書ニ記載シ之ヲ裁判所ニ届出ツヘシ

第八款 假差押命令ノ執行

假差押ノ命令ノ執行(七三七以下)ヲ爲スニ當リ執達吏ノ爲スヘキ手續ハ(七四九、七五〇)ハ例外ナリ(通常ノ強制執行手續ト同一ナリ)假差押ノ命令執行ハ之ヲ言渡シ又ハ言渡書ノ送達ヨリ十四日ノ後ニアラサレハ爲スヲ許サ、ルニアレハ此期間ヲ經過シタルヤ否ヲ調査スヘ

○債務者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行○證人勾引ニ關スル執行○假差押命令ノ執行 三百七

シ(七四九)

假差押ノ命令ニ差押フヘキ物ヲ明記セサルハ債權者ノ請求并ニ其利息及ヒ費用ヲ満足セシムルニ足ルヘキ丈ケノ物ヲ差押フヘシ何レノ場合ヲ問ハス差押物ヲ領收セハ之ヲ競賣ニ付スルコトナク事件ノ完結ニ至ルマテ貯藏保存スル義務アリ然レトモ差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐レアルハ又ハ其貯藏ニ付不相應ナル費用ヲ要スヘキコト明了ナルハ之ヲ競賣ニ付セラレノコトヲ裁判所ニ申出テ且債權者ニ之ヲ告知シテ便宜ノ處分ヲ爲スヘシ(七五〇)

第九款 假處分命令ノ執行

假處分ノ命令ノ執行ハ金額ヲ領收スル目的ニ非スシテ物ノ引渡、行爲ノ作爲若クハ不作爲ニ關スル處分ヲ爲シ將來ノ強制執行ヲ保全セシムルニ在リ(七五五以下)此場合ニ於テハ執達吏ハ假差押命令ノ執行ヲ爲スノ手續ヲ準用スルモノトス(七五六)

第十款 裁判上ノ供託

執達吏法律ノ規定ニ依リ供託ヲ爲スヘキ時ハ差押物又ハ賣得金ヲ債權者ニ渡サ、ルモノトス

供託ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ

第一 保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シ強制執行ヲ免カラルコトヲ債務者ニ許シタルトキ(五〇〇、五二二、五四七、七七四、七五九)

第二 賣得金ノ裁判所ニ於テ配當スヘキキ(五九三、六二二、六二六)

第三 裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキ

供託ハ供託規則ニ從ヒ直チニ所屬ノ供託所即チ本支金庫ニ就テ之ヲ行フヘシ右第二號ノ場合ハ執行裁判所ニ届出ツヘシ(五九三、六二二)

此事情届書ニハ執行ニ關スル債務名義ノ證差押調書供託ニ關スル證書並ニ其他執行手續ニ關スル書類就中差押及ヒ轉付ノ命令ヲ添付ス可シ

第四節 任意ノ競賣

○假處分命令ノ執行 ○裁判上ノ供託 ○任意ノ競賣

動産不動産ノ任意競賣ハ關係人ノ直接委任ニ因リ之ヲ施行ス(民法財産取得編一〇四乃至一〇六及ヒ執達吏規則第二條)執達吏ハ其施行ノ職權ヲ濫用シテ自ラ之レカ委任ヲ求メ又ハ之ヲ勸誘スヘカラス且之レカ爲メ他ノ本職ヲ忘ルヘカラス

委任者ハ競賣ノ條件即チ期日、場所及ヒ公告手續等適宜之ヲ定ムヘシ〇賣却ニ先チ物ノ價額ヲ評價セシムルヲ及ヒ其賣得金ヲ取立ツルヲハ委任者ノ指定ニ任スヘシ又執達吏ハ自ラ右取立ノ手数料ヲ豫約スルヲ得ス

執達吏ハ競賣物ノ度量、箇數等ヲ成ルヘク詳細ニ號ヲ逐ヒテ記載シ表ヲ作り之ヲ委任者ニ示シ其承諾及ヒ署名捺印ヲ請フヘシ若シ委任者ヨリ該表ヲ作り交付シタルキハ執達吏ハ其當否ヲ調査シ之ニ認證スヘシ競賣物委任者ノ手中ニ存在シ其委任者ニ於テ製表ヲ望マサルトキハ之ヲ作ルヲ要セス

競賣物ノ保存ヲ委任セラレタルトキハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ケタル調書ヲ作ルヘシ

第一 物ノ明記又ハ特別ニ製表シタルコト有無ノ開示

第二 其物ヲ現ニ執達吏ニ交付シタルコトノ記載

價額ヲ評價シタル場合ニ於テハ表中各物ノ左側ニ其評價額ヲ記入スヘシ

委任者ノ特別指定アラサル限りハ執達吏ハ民事訴訟法(五七三乃至五七七、五八四)ニ從ヒテ準用スヘシ又執達吏ハ自ラ之ヲ買取リ又ハ親屬若クハ他人ニ依リテ之ヲ買取リ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ルヲ得ス且其補助ノ爲メ立會ハシメタルモノニモ競買ニ干與セシムルヲ許サス執達吏ハ競賣期日ヲ適當ノ時期ニ於テ委任者並ニ委任者ヨリ賣得金ノ取立若クハ立會ヲ委託セラレタル者ニ通告シ又競賣調書ノ謄本ヲ委任者ニ送付スヘシ

第五節 供託ニ付テノ認證

金錢又ハ有價證券ヲ供託ノ爲メ供託所へ送付スル者ハ之ヲ送付シタル
トニ付認證ヲ執達吏ニ求ムルヲ得認證ノ求テ受ケタル執達吏ハ唯其
金錢若クハ有價證券カ其書狀中又ハ封皮中ニアリトノ供託者ノ確言ノ
ミヲ以テ足レリト爲スヘカラス必ラス送付ノ實否及ヒ其數量ノ如何ヲ
確知スルヲ要ス若シ此目的ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ其金額、有價
證券ノ種類ヲ總テ取調ヘ之ヲ計算シ且供託者ノ面前ニ於テ送狀ト比較
シタル後之ヲ包裝シテ送付セシメ又ハ拂込マシム可シ送付ニ關スル必
要ナル手續ハ供託規則ニ從フヘシ
認證書ハ原本ニテ委託者ニ交付スヘキモノトス

第六節 手數料

執達吏ハ其職務執行ニ付キ作りタル證書ノ原本ニ手數料及ヒ立替金(手
數料規則二乃至一八)ヲ計算シテ其額ヲ附記シ置キ後ニ作ルヘキ書類ノ

正本ニ記入スルノ用ニ供スヘシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキ場
合ニ於テ最短ノ時間ニ付定メタル手數料ヲ超過スルモ其時間ヲ附記
スヘシ(手數料規則二三)以上手數料及ヒ立替金ハ其各種類ヲ區別シテ之
ヲ表示スヘシ例ヘハ送達手數料、郵便税、送致費用等ノ區別是レナリ且旅
費ニ付テハ往復旅程ヲ總計シテ載スヘシ
計算書ニハ通常職務簿(此帳簿ハ執達吏ノ常ニ備置ク帳簿ナリ)ニ記シタ
ル事件ノ番號ヲ附記シ又證書ノ謄本ニハ手數料計算ノ謄本ヲ添附シ置
クヘシ
手數料ヲ支拂フモノ其證書ノ原本謄本トモ所持セサルニ因リ特別ニ手
數料ノ計算書ヲ作ルヘキトキハ執達吏ハ該計算書ニ其事件及ヒ施行シ
タル執務ヲ簡短ニ掲ケ且手數料ノ多寡ニ關係アル場合ハ執務ニ係ル物
及ヒ其日時、場所ヲモ掲ケ之ニ署名捺印ス
手數料及ヒ立替金ノ豫納トシテ受取リタル金額及ヒ豫納金ノ殘額ノ返

還ニ付テハ職務簿ニ一々記入スヘシ

手数料及ヒ立替金ハ委任事件終了後直チニ其計算ヲ通知シ委任者ヨリ取立ツ可シ其裁判所書記ヲ經タルト否トニ拘ハラサルモノトス但債務者ニ對スル強制執行ニ付キ此債務者ヨリ取立テス又ハ強制執行ノ際同時ニ取立テサルトキニ限ルヘシ(五五四、手数料規則二〇)

執達吏ハ國庫ヨリノ支給ヲ受取ル爲メ過ル三ヶ月間ノ立替金ヲ決算シ且職務簿ヲ區裁判所判事ニ差出スヘシ其決算方法ハ左ノ如シ

第一 三ヶ月分ノ職務簿中ニ各月ノ計算ヲ結ヒ尙ホ其三ヶ月ヲ併合シタル決算

第二 決算ノ日時及ヒ執達吏ノ署名捺印

毎年一月ヨリ三月マテノ決算ハ四月中ニ四月ヨリ六月マテノ決算ハ七月中ニ七月ヨリ九月マテノ決算ハ十月中ニ十月ヨリ十二月マテノ決算ハ翌年一月中ニ各差出スモノトス其特別ノ場合ニ於テ決算ノ時事件未

タ終了セサル爲メ立替金ヲ計算スルヲ能ハサルモノハ後期ノ第一ノ月ノ職務簿ニ右事件ノ新番號ヲ附シ新舊兩簿ノ番號ヲ以テ前期ニ關スル立替金ヲ後期ニ移シ記シタルヲ標示スヘシ

無資力者裁判所ヨリ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルハ送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利アリ(九七ノ三)又救助ヲ受ケタル者ハ此救助ヲ受ケル際送達ニ付テハ裁判所書記ニ申立テ一時無報酬ニテ送達ヲ爲サシムヘキヲ求メ書記ハ之ヲ執達吏ニ通達シ又執行行爲ニ付テハ書記ヲ經テ又ハ直接ニ執達吏ニ委任スルヲ得

該區裁判所管轄内ニ職務ヲ奉スル執達吏ニシテ右ノ委任ヲ受ク可キ義務アル者ハ事務分配ニ依リ職務ヲ施行スヘキ土地ニ從ヒ裁判所書記ヲ經タル委任ニ應スヘキ執達吏ナリトス

執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ對シ其證明ノ爲メ裁判所ヨリ付

與シタル裁判ノ提出ヲ求ムルヲ得然レトモ裁判所書記ヲ經タル委任
 又ハ辯護士ヨリ爲ス委任ニ付テハ右救助ヲ受ケタルノ證ノミヲ以テ
 足レリトス
 訴訟上救助ヲ受ケタル者ノ爲メ爲シタル行爲ノ手数料及ヒ立替金ヲ訴
 訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ取立ツル方法ハ民事訴訟法第
 九十九條ノ規定ニ從ヒ其強制執行ノ費用ニ付テハ債務者ノ有体動産ヨ
 リ取立ツルモノトス
 訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ辨濟シ能ハサル執達吏ノ立
 替金ハ執達吏手数料規則第二十二條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ支辨ス此時
 ハ決算ヲナシ之ヲ區裁判所判事ニ差出スヘシ

文例
 續編
 民事訴訟手續畢

明治廿四年四月廿六日印刷
 同 年四月廿八日出版

正價金三十錢

和歌山市湊北町二丁目三番地

種 山 廣 業

大阪市東區南久寶寺町四丁目廿一番屋敷

岡 島 幸 次 郎

大阪市東區本町四丁目百五十四番屋敷

岡 島 眞 七

大阪市東區南久寶寺町四丁目廿一番屋敷

岡 島 寶 文 館

大阪市東區備後町四丁目十九番屋敷

岡 島 支 店

東京市日本橋區通三丁目八番地

岡 島 支 店

版 權 所 有



著 述 者
 印 刷 兼
 發 行 者
 發 兌 所

同

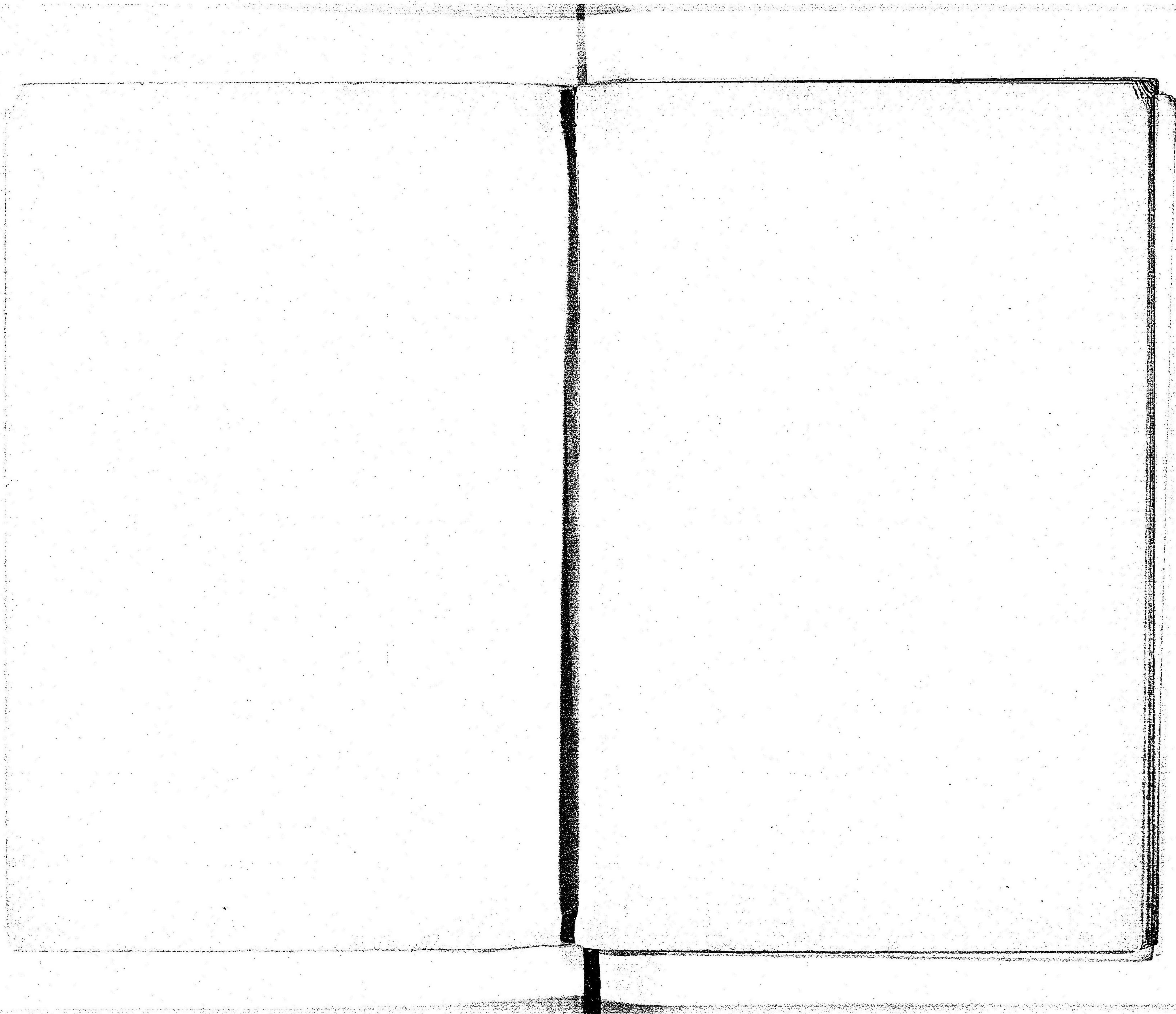
同

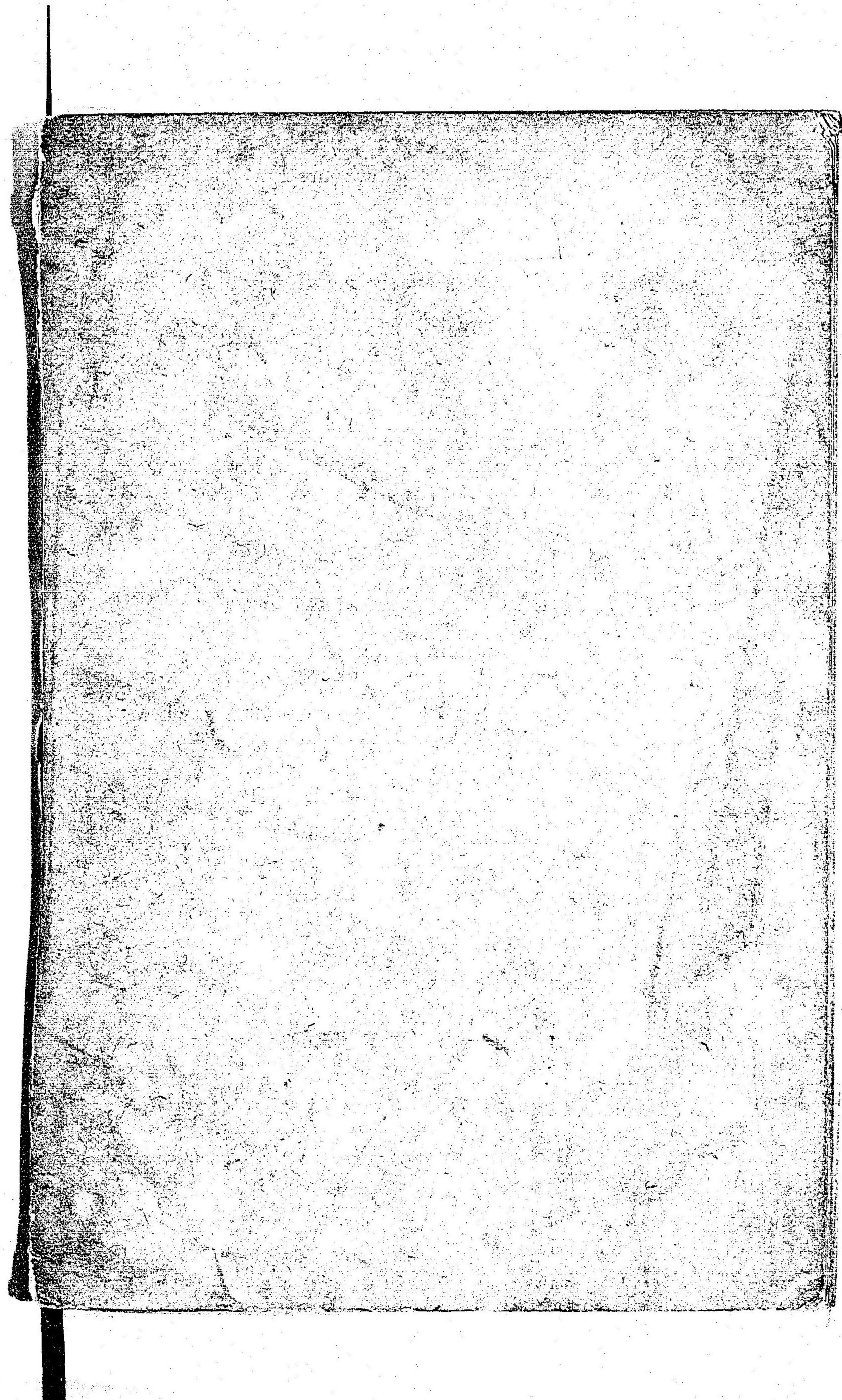
各縣賣捌書肆

播州姫路後町	同 米田町	備前岡山中之町	岡山柿屋町	同 西大寺町	備後尾之道土堂町	藝州廣島橋町	防州山口中市町	長門豐浦中濱町	雲州松江天神町	同 松江天神町	同 同	淡路羽本	阿波徳島通三丁目	讃岐高松南新町	伊豫松山湊町三丁目	同 松山湊町三丁目	豐前中津博多町	薩州鹿兒島十市町	肥後熊本新町三丁目	
山本	森野	假太	竹内	三木	松村	宮川	村川	川谷	岡喜	大浦	福井	阪友	龜藏	向肥	土依	山野	山崎	長治	長治	
平藏	長輔	太郎	三兵衛	助衛	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉	助吉

大阪賣捌書肆

心齋橋南一丁目	同 安堂寺町南へ入	同 安堂寺町南へ入	同 願慶町北へ入	同 傳勞町南へ入	同 南久寶寺町北へ入	同 北久寶寺町南へ入	同 北久寶寺町南へ入	同 南久太郎町南へ入	同 北久太郎町北へ入	同 本町北へ入	同 安土町南へ入	同 備後町南へ入	同 備後町南へ入	同 備後町角	同 備後町北へ入	同 備後町東へ入	同 淡路町北へ入	京町堀通五丁目	天神橋通松屋町
松村	田中	青木	此川	中川	前川	丸善	三木	中島	柳原	赤志	鹿田	小谷	此村	吉岡	梅原	博聞	中野	平野	湯川
兵衛	右衛門	三郎	庄助	勤助	勤助	支店	佐助	兵衛	兵衛	忠兵衛	靜三郎	三郎	彦助	平助	龜分	藤兵衛	藤兵衛	藤兵衛	藤兵衛





判事樋山廣業著述

文例
續蕭
民事訴訟手續

版權所有
岡島實文館藏

037078-000-9

特15-252

民事訴訟手續

樋山 廣業/著

M24

BBS-0666

